

る³¹⁵。

2005年に訪れたときには全体に建物が傾き、崩壊が進んでいた。特に Shāh Ṭāher の棺のある部屋は屋根が落ちており、棺は見えなくなっている。

(225) Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd (写真 612,613,614)

Rūstāye Bādorūd

Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far
村の一番奥の山の下。樹齢6~700年ほどの大きなチェナールの陰。

Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd と Boq‘e Seyyed ‘Alī, Borje Sangī³¹⁶による
コンプレックスが形成されている。

廟の奥に水の湧き出し口があり、村にパイプで引かれている。

廟は古いものが完全に壊れてしまったために、新しく建て直したとのこと。
ホセイニーエも兼ねており、金属製のザリーは廟の隅に寄せて置かれている。

オリジナルの廟の建築年代は6-7/12-3世紀に遡ると考えられている³¹⁷。

(226) Boq‘e Seyyed ‘Alī (写真 615,616)

Rūstāye Bādorūd

Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd とは涸れ川を挟んで向かい合っている。

Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd に仕えていた Seyyed ‘Alī とその家族の
墓だと言われている。

廟には Seyyed ‘Alī とその妻、三人の子どもの墓が並んでいる。

Emānzādegān Moḥammad va Maḥmūd が敵たちによって殺されたとき、敵た
ちに従わなかった Seyyed ‘Alī とその家族も殺された。その時、妻は身籠もつ
ていたが、敵たちはその腹を割き、子供を引きずり出して殺したと伝えられて
いる。

廟の建築年代はガージャール朝時代と考えられている³¹⁸。

(227) Ziyāratgāh (写真 617)

Rūstāye Bādorūd

村はずれにある岩にアルミボックスとシャムダーンが据え付けられている。
どのような人物と関連する聖所なのかは不明。

アルミボックスには造花などが供えられ、シャムダーン以外の場所でもろ

³¹⁵ *Āthāre Tārkhīye Fīrūz-kāh*, pp.291-294. *Pazhūhesh-nāme*, p.182.

³¹⁶ 現地の塔に据え付けられた表示によると Khānqāh であるとのこと。現在は入り口がふさがれており、中に入ることはできない。(*Āthāre Tārkhīye Fīrūz-kāh*, pp.270-273)

³¹⁷ *Āthāre Tārkhīye Fīrūz-kāh*, pp.277-278. Borje Sangī とほぼ同じ頃と考えられている。

³¹⁸ *Pazhūhesh-nāme*, p.184.

うそくを灯した跡が沢山見られる。

(228) Emāmzāde ‘Aṣḡarī (Ṭayyeb, Ṭāher va ‘Aṣḡarī) (写真 618,619)

Rūstāye Shahr ābād

Rūstāye Dehīn から来る場合の村の入り口の小さな丘の上。

周囲は村の墓地。

ハラム一杯に大きな木製のザリー³¹⁹。その中に巨大なコンクリート製の棺。
建築年代は 8-9/14-15 世紀と考えられている³²⁰。

(229) Emāmzāde Haft tan (写真 620,621,622)

Rūstāye Dehīn

村のはずれ。傍らを小川が流れている。

廟の中には絨毯が敷き詰められ、被葬者を示す墓石や棺は見られない。
新しい建物。部屋の中に飾られている装飾にダヒールが結ばれている。

(230) Emāmzāde Aḡmad va Maḡmūd (写真 623,624,625)

Rūstāye Ṭāres

村から山手に向かい 800 メートルほど。畑の中の低い丘に立つ廟。

丘の上にはいくつかの墓が見られる。

壁やドームの一部が崩れ落ち始めている。

木製のサンドウグの中に二つの墓石³²¹。

2005 年に訪れたときには修復が終わっていたが、廟の前方のファサードは
取り払われ、廟内のサンドウグや墓石もなくなっていた。

建築年代ははっきりしない³²²。

(231) Emāmzāde Aḡmad (?) (写真 626,627)

Rūstāye Ṭāres

村の入り口に立つ新しい廟。周囲は村の墓地。

広い部屋の中央に緑の布をかけた墓石が一つ置かれている。

村の人々に尋ね回ったが、誰が埋葬されているのか、名前は特定できなかった。

しかし、人々の信仰は集めているとのことで、墓石の近くにはろうそくを
灯した小皿が沢山並べられ、また、廟の窓枠にもろうそくの跡が多数見られる。

³¹⁹ 約 150 年前のものとなされている。(Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh, pp.266)

³²⁰ Pazhūhesh-nāme, p.184.

³²¹ Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh, pp.261-263.

³²² Pazhūhesh-nāme, p.184.

(232) Emāmzāde Yahyā (写真 628,629)

Rūstāye Harān-deh

テヘラン-フィールズクープ街道沿い。村はずれの墓地の中。

廟内には九つの墓石。一番奥が Yahyā で残りは家族や親戚のものと言われているが、どの墓が誰のものなのかは分からず、また家族の名前なども不明である。

廟の建築年代は 6-7/12-3 世紀であるとされている。³²³

(233) Qadamgāhe Khāje Kheḍr (写真 630,631,632,633)

Rūstāye Varskhārān

(北緯 35 度 43 分 51 秒、東経 52 度 31 分 27 秒、標高 2280 メートル)

谷間の村の一番奥。斜面に貼り付くようにして建つ廟。廟の建つ斜面には村の墓地。

廟の裏手から水が湧き出し、村を潤している。

廟の中は特にガダムガーを表すものはなく、廟の一番奥に置かれたミンバルにダヒールが大量に結びつけられている。

現在の廟は改修が行われているが、オリジナルは、3-4/9-10 世紀に遡ることができる³²⁴。

廟の隣にはザーエルサラールも設けられている。特に夏はズィヤーラトの人々が多く訪れるとのこと。

(234) Emāmzāde Davāzdah tan Ma'sūmzādegān (写真 634,635,636,637,638)

Rūstāye Arjmand

(北緯 35 度 49 分 03 秒、東経 52 度 30 分 51 秒、標高 2188 メートル)

街道から入ってくると村の一番奥に広がる墓地の中。

四つのドームが連なる廟。それぞれのドームの下に部屋いっぱいになるほど巨大なコンクリート製の墓石。この廟に 10 人のエマームザーデが葬られているという。

墓地の一角、四つのドームの廟の後ろに低い丘があり、そこにも廟が一つ建っている。中には墓石が二つ並んでいる。この二人を合わせて 12 人になるという。

12 人の血統や、関係は明らかではない。

³²³ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.194-196. *Pazhūhesh-nāme*, p.186. Pāzoukī は、廟周辺の墓地はイスラーム以前のものも見られると指摘している。

³²⁴ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.205-208. *Pazhūhesh-nāme*, p.184.

廟の傍らにチャハールターギー。

廟の建築年代は 4-5/10-11 世紀に遡ると考えられている³²⁵。

- (235) Emāmzāde Do tan Āqā (Do Teflān Āqā yā Moḥammad va Aḥmad)³²⁶ (写真 639,640)

Rūstāye Arjmand

(北緯 35 度 48 分 96 秒、東経 52 度 30 分 73 秒、標高 2219 メートル)

村はずれの丘の中腹。周囲に村の家が点在する中。

入り口を入れてすぐの礼拝などのための部屋と、その奥に棺の置かれた部屋。二つの棺が部屋の左右の一つずつ置かれている。

埋葬されている二人の人物については兄弟という以外は知られていない。

1357S.H./1978-9 年に改修が行われている。オリジナルは 7-8/13-14 世紀世紀のものと考えられている³²⁷。

- (236) Maqbare Āqā Seyyed Moṣṭafā (写真 641,642)

Rūstāye Ehenz

(北緯 35 度 45 分 66 秒、東経 52 度 32 分 65 秒、標高 2234 メートル)

村はずれに建つ廟。敷地の外側に村の墓地。廟の下には小川。

廟の背後に生えているアールーチェの木により隠されていて、街道からは直接見ることができない。

200 年ほど前にこの村でなくなったセイエドに対して崇敬の念を持っていた村の人が建てた廟だとのこと³²⁸。その後、セイエドの孫が傍らに葬られた³²⁹。

- (237) Emāmzāde Khoshnām³³⁰ (写真 643,644,645)

Rūstāye Lazūr (北緯 35 度 52 分 12 秒、東経 52 度 34 分 7 秒)

村の外の中の山の中。川に沿って山の中に入り 30 分以上歩いたポプラの木などに囲まれた岩の前。

突き出た岩に覆い被さるようにして建てられた廟。えぐれたように深くなっている部分にろうそくを灯した跡がびっしりと見られる。その手前には柱のようなものがたてられ、ダヒールが大量に結びつけられている。

廟の内部には特に水が湧き出している場所は見られないが、廟の外は湧き

³²⁵ *Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kāh.*, pp.235-240. *Pazhūhesh-nāme*, p.185. ただし、Pāzouki は「900 年以上前」という言い方をしている。

³²⁶ ワクフ慈善庁のリストでは“Do tan Āqā”。

³²⁷ *Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kāh.*, p.241. *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

³²⁸ *Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kāh.*, pp.247-248. *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

³²⁹ Pāzouki によると、セイエドの孫が葬られたのは 80 年ほど前である。

³³⁰ *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī.*, jelde avval によると、Bībi Khoshnām である。(p.108)

水などで水が豊か。

廟の建築年代は 10/16 世紀と見なされている³³¹。

(238) Āqā Seyyed Esmā‘īl (写真 646,647)

Rüstāye Lazūr

村の中の小さな廟。

Āqā Seyyed Esmā‘īl とその家族の墓が並ぶ。

掃除が行き届き、ろうそくを灯した跡も多く見られ、村の人々がよく訪れていることが見て取れる。

(239) Emāmzāde Šāleḥ (Ma‘šūm) (写真 648,649,650)

Rüstāye Lazūr

(北緯 35 度 52 分 24 秒、東経 52 度 34 分 13 秒、標高 2407 メートル)

村の外れの村を見下ろすことができる斜面に建つ廟。周囲は墓地³³²。

入り口を入れて右側部屋にある緑の布をかけられた木製のサンドウグがエマームザーデのもの。左側の部屋にもコンクリートで作られた棺状の墓が二つあるが、こちらは近年作られたもので、エマームザーデとは直接の関係はないとのこと。しかし、エマームザーデに対するのと同じように村の人々により敬意が払われているとのことであった。

建築年代は 7-8/13-14 世紀とされているが³³³、現在は改修が行われている。

(240) Emāmzāde ‘Abdollāh (写真 651,652)

Rüstāye Shādmehn

(北緯 35 度 49 分 17 秒、東経 52 度 32 分 02 秒、標高 2160 メートル)

村の中にある廟。周囲は墓地。アルジュマンドからラズールへ向かう街道が折れ曲がったところ。

905/1499-1500 年の日付を持つ木の窓があり、1204/1790 年のラマダーン(5 月 15 日から)の日付が彫られた、大きな木のサンドウグが置かれた小さなハラムを持つ。建築年代は 7-8/13-14 世紀に遡ると推測されている³³⁴。

村の人々の信仰を集めており、よく人が訪れるし、廟に関心を持ち続けているから鍵をかける必要がないほどであるとのこと。

³³¹ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.254-255. *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

³³² 改修前の様子については、*Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.249-252.を参照のこと。

³³³ *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

³³⁴ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.243-245. *Pazhūhesh-nāme* では 8/4 世紀となっている。(p15) *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, p.189.

(241) Emānzāde Bībī Ḥalīme Khātūn (写真 653,654,655)

Rūstāye Shādmehn

(北緯 35 度 48 分 89 秒、東経 52 度 32 分 18 秒、標高 2204 メートル)

村から離れた谷間。現在は枯れている小川のほとり。古い墓地在周囲に広がっている。

現在は人があまり訪れなくなっているらしく、ドームは崩れ、入り口の扉もなくなっている。廟の中には墓石や棺は置かれていない。ろうそくを灯した跡がわずかに見られる。

建築年代は 7-8/13-14 世紀と見なされている³³⁵。

2005 年に訪れたときには文化財保護庁による修復が行われていた³³⁶。

村の人によると、信仰がなくなったわけではないが、どちらかというところ、Emānzāde ‘Abdollah の方を訪れるとのことであった。

(242) Emānzāde Seyyed Moẓffar al-Dīn (写真 656,657)

Rūstāye Veshtān

(北緯 35 度 46 分 39 秒、東経 52 度 29 分 58 秒、標高 2140 メートル)

Seyyed Moẓffar al-Dīn b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村の中にある廟。周囲には墓地。

最近金属製のザリーに取り替えられた。古い木製のズィヤーラトナーメが残されている。

近年増築された廟の前方部分の部屋には、村出身のシャヒードの肖像やエマームの肖像画などが飾られている。また、いくつかのシャヒードの墓もこの部分にある。

建築様式などから 7-8/13-14 世紀のものと考えられている。³³⁷

(243) Emānzāde Solṭān Ebrāhīm Reḍā (写真 658,659,660)

Rūstāye Āsūr

(北緯 35 度 47 分 19 秒、東経 52 度 25 分 52 秒、標高 2246 メートル)

Emānzāde Solṭān Ebrāhīm Reḍā b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村の中央部。村の墓地の中。

フィールーズクーフの Emānzāde Esma‘īl、ザルマーン村の Emānzāde

³³⁵ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.246-247. *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

³³⁶ ワクフ慈善庁のリストに載り、同庁による管理が行われていることになっていることから、村の人々が修復を望み、寄付を募っていたなら、ワクフ慈善庁主導による修復が行われていたはずである。しかし実際にはそのような動きはなく、文化財保護庁が予算を組み、修復を行っていることから、村人のこの廟を維持することへの熱意が薄いことは見て取れる。

³³⁷ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.211-214. *Pazhūhesh-nāme*, p.185.

‘Abdollāh とは兄弟。

廟と向かい合うようにして、村のホセイニーエとマスジェドが作られている。

廟の裏手に川が流れている。

廟の中には布がかけられた木製のサンドゥーグとダヒールが結ばれたアラム。

廟の建築年代は 7-8/13-14 世紀と推定されている³³⁸。

(244) Emāmzāde Qā‘em (写真 661,662)

Rūstāye Āsūr – Kenāre Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā

Emāmzāde Qāsem barādarzādeye Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā

Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā にくつつくようにして作られた小さな廟。

Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā 廟から入り、入り口右手にある小部屋が Emāmzāde Qā‘em。入り口正面が Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā。

部屋の中には小さな木製のサンドゥーグ。Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā を訪れた人は必ず、こちらにもズィヤーラトをしていくとのこと。

2005 年に訪れた際には、二つの廟の周辺がすべて掘り返されていた。村の人の話によると、文化財保護庁が掘り返した後埋め戻しをしていていないとのことであった。

廟の建築年代は Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā と同時期と推定される³³⁹。

(245) Seyyed ‘Alī Kiyā (写真 663,664)

Rūstāye Āsūr - Dākhere Maṣjede Valī ‘Asr

村のはずれ。Maṣjede Valī ‘Asr の中³⁴⁰。

マスジェドの中、奥の部屋にザリーが置かれている。マスジェドの中のホセイニーエのような位置づけになっている。

マスジェドには普段は鍵がかけられている。

血統その他は明らかではない。

(246) Emāmzāde Ja‘far (写真 665,666)

Rūstāye Najafdar

(北緯 35 度 47 分 38 秒、東経 52 度 22 分 34 秒、標高 2406 メートル)

³³⁸ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.217-220. *Pazhūhesh-nāme*, p.186.

³³⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.186.

³⁴⁰ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, p.217. ここでは Maṣjede Jāme‘の中にあると書かれているが、実際には Maṣjede Valī ‘Asr の中。Maṣjede Jāme‘は Emāmzāde Solṭān Ebrāhīm Reḏā の中に建てられているもので、全く別なマスジェドである。

Emānzāde Ja'far b. Emām Mūsā b. Ja'far

村の北の外れ。ヴェシュターン村の *Seyyed Moẓffar al-Dīn* とは兄弟とのこと。周囲は墓地。廟の下からは水が湧き、村の中へと流れている。

ハラムである塔状の部分への入り口はかがみ込まなければならないほど背の低いもの。その奥には部屋一杯になるような大きな木製のザリー。ザリーの一面は開かれており、中の墓に直接触れることができるようになっている。

廟の建築年代は、塔の部分が 7-8/13-14 世紀、その前部の礼拝や集会を行うための部屋が 10-11/16-17 世紀と考えられている³⁴¹。

(247) **Emānzāde Ebrāhīm Yaqīn** (写真 664,665)

Rūstāye Najafdar

(北緯 35 度 47 分 31 秒、東経 52 度 22 分 42 秒、標高 2397 メートル)

街道から下がった川沿い。街道と廟の間には村の墓地。

村のホセイニーエを兼ねた建物が作り付けられている。

ワクフ慈善庁のリストなどによると「エマームザーデ」という名前になっているが、村の人の話によると「ダルヴィーシュ」であったとのこと。非常に徳の高いダルヴィーシュであり、村の人々の敬意を集めていた。死に臨み、母に向かって、「私が死んでも泣かないように。もしあなたが泣いたなら私は天国へ行くことができないから」と言い残した。しかし、葬列が現在の廟のあるところへさしかかったとき、ダルヴィーシュの母親は我慢できなくなり、涙をこぼした。すると、ダルヴィーシュの遺体は地面に落ち、そこからどうやっても動かすことはできなくなってしまった。そのため、その場所に埋葬され、廟が作られた、と伝えられているとのこと。

廟の建築年代は、建築様式などから、6-7/12-3 世紀のものとして推定されている³⁴²。

(248) **Emānzāde Soljān Moḥammad Reḏā** (写真 669,670,671)

Rūstāye Zarmān

(北緯 35 度 48 分 11 秒、東経 52 度 18 分 27 秒、標高 2777 メートル)

エマーム・マフディーの兄弟と信じられており、ザルマーン村だけではなく、周辺の村の人々などからも非常に敬意を払われている。そのため、遠くからこの廟を訪れたり、何日も泊まり込む人がある。そうした人々のため、敷地内にザーエルサラーを建設し便宜を図っているとのこと。また、近年、同じ敷地内に村のホセイニーエも建設された。

³⁴¹ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.224-226. *Pazhūhesh-nāme*, p.186.

³⁴² *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.222-223. *Pazhūhesh-nāme*, p.166.

村の中心部に近く、小高くなっている場所。廟の周囲には墓地が設けられている。

廟の空間一杯になるほど大きな木のサンドウグ。四隅にはダヒールが沢山結ばれている。

建築様式その他などから、7-8/13-14世紀の建築と見られている³⁴³。

(249) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 672,673)

Rūstāye Zarmān

村の外れの畑の中。セピーダールの木の陰。廟の傍らからは泉が湧き出している。

以前ここにあった建物は完全に壊れてしまい、このエマームザーデに非常に信仰を寄せていたあるマーザンダラーンの住民がお金を寄付し、現在の廟を建てたとのこと。

建物の中には、被葬者を示す墓石、棺などは見えず、部屋の片隅にある木の台に緑の布がかけられ、アッバースの手が結びつけられ、ダヒールが結ばれている。

古い建物は8-9/14-15世紀に建てられたものであったと推定されている³⁴⁴。

(250) Emāmzādegān ‘Abdollah va Shāhzāde Maryam (写真 674,675)

Rūstāye Siyāh-deh

(北緯 35 度 46 分 50 秒、東経 52 度 49 分 70 秒)

フィールーズクーフ-セムナーン街道沿いの村。

村の外れの丘の上に立つ廟。大小二つのドームを持つ。周囲には墓地。

二人は兄妹であり、マシュハドへ行く途中、ここで亡くなり、葬られたと考えられている。

村の人の話によると、廟の裏手からは泉が湧いており、村のバグを潤していた。しかし、ある時、盗掘が行われ、廟の中や周囲が掘り返されてしまった。その後、水の出が悪くなり、とうとう干上がってしまったとのこと。また、廟もその際にドームの崩落が起こったりして、崩れかかってしまった。

その後、ワクフ慈善庁の協力により修復が行われ、大理石の新しい墓石を置くことができたが、今度は文化財保護庁の調査と言ってその墓石が持ち去られ、未だに返してもらえていない、とのことであった。

廟の建築年代は、5-6/11-12世紀に遡ると推測されている³⁴⁵。

³⁴³ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.227-230. *Pazhūhesh-nāme*, p.186.

³⁴⁴ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.232-233. *Pazhūhesh-nāme*, p.186.

³⁴⁵ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.66-68. *Pazhūhesh-nāme*, p.182. *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.124-125.

(251) Emānzāde Qāsem (写真 676,677,678)

Rūstāye Katālān

(北緯 35 度 50 分 17 秒、東経 52 度 50 分 81 秒、標高 2820 メートル)

村から山間の谷間に 5 キロメートルほど入った場所。

周囲は夏营地となっており、夏には羊を連れた人々でいっぱいになるとのこと。

谷の奥へと続く道からは小高くなっている場所にある廟は見えにくい。

新しい建物の中には埋葬された人物を示すような墓石や棺は見られず³⁴⁶、片隅に置かれたミンバルにダヒールが結ばれている。

本来、現在の廟のある位置ではなく、もう少し下の部分にエマームザーデに所縁の場所があったとのされている³⁴⁷。

(252) Emānzāde Shāh Moṭahhar (写真 769)

Rūstāye Mashhade Fīrūzkūh³⁴⁸

村の中央にある丘の上。丘の斜面には村の墓地。

廟そのものは革命前に修理が行われ、ほぼ新しいものであるとのこと。

村の人々の信仰を集めているとのことであるが、木曜日の午後には鍵を開けず、また鍵の管理者が村の外へ出ているとのこと、中の様子を見ることはできなかった。

廟に残された扉などの碑文などから、廟の建築年代は 4-5/10-11 世紀と考えられている³⁴⁹。

(253) Emānzāde Shāh Ṭāher (写真 680,681)

Rūstāye Mashhade Fīrūzkūh

(北緯 35 度 36 分 17 秒、東経 52 度 28 分 19 秒、標高 1692 メートル)

村の奥。後背には山が迫る谷になった場所。谷の奥からは水が流れ、村を潤している。

木製のザリーが置かれた部屋があるだけの小さな廟。

³⁴⁶ Pāzoukī によると、盗掘のために墓石が破壊されたとのこと。(p.300) 現在の建物になる以前の建物については、4-5/10-11 世紀に遡る可能性が指摘されている。(Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh, p.300. Pazhūhesh-nāme, p.182)

³⁴⁷ Pāzoukī によると、エマームザーデの足跡、杖をついた跡、エマームザーデの乗った馬の足跡と言われる場所が残っている。(p.300)

³⁴⁸ マシュハド村は行政的にはダマーヴァンド郡に属している。また、この村にある三つの聖所についてはワクフ慈善庁のダマーヴァンド郡事務所とフィールーズクーフ郡事務所双方のリストに載っている。双方の事務所に問い合わせたところ、双方とも管理を行っているとの返答であった。今回のリストでは、現地を案内してくれたフィールーズクーフ郡の事務所に従い、フィールーズクーフ郡の聖所とした。

³⁴⁹ Āthāre Tārīkhīye Damāvand, pp.484-487. Pazhūhesh-nāme, p.102.

常に扉が開かれているため、村の人はよく訪れているとのこと。

革命前後に建て直しが行われたとのこと。それ以前の建物も 100 年ほど前のものであったらうとされている³⁵⁰。

(254) Emāmzāde Bībī Khātūn (写真 682)

Rūstāye Mashhade Firūzkūh

(北緯 35 度 36 分 18 秒、東経 52 度 28 分 13 秒、標高 1695 メートル)

村の入り口に当たる場所。街道からは少しくだった場所。

最近、盗掘が行われ、その影響で廟が完全に壊れてしまったとのこと、仮の部屋が作られている。廟を再建するためにお金を集めているところだが、なかなか集まらないために再建が遅れているとのことであった。

壊れてしまった廟の年代は、残された柱の彫刻などから 7-8/13-14 世紀と推測されている³⁵¹。

(m) ヴァラーミーン区 (Varāmīn)

テヘラン州南東部に位置し、北をラヴァーサーナート郡、南はセムナン・ゴム州に属する中央キャビール、西をレイ郡と境を接する。

キャビールに近く、またその一方でアルボルズ山脈の裾野に位置することから、夏は乾燥して暑く、冬は非常に寒い。

全体に平坦な土地はラヴァーサーナートから流れるジャージュール川による堆積土であり、農業生産力が高い。農業に必要な水も、ジャージュール川あるいはアルボルズ山脈近くに水源を持つガナートによって得られている。綿花、小麦、大麦、ビート、スイカ・メロン類、野菜類など、さまざまな作物が生産されている。

ジャージュールの水を利用した人々が古くからこの地域には住み、先史時代からの多くの遺跡が点在する。また、アケメネス朝最後の王ダリウス三世がヴァラーミーンを通過してホラーサーンへ逃げたとされるなど、イスラーム以前からその存在は確認される。イスラーム以後も、地理書や歴史書に名前は見られる。ヴァラーミーンの町の繁栄はブワイフ朝に始まると見なされている。8/14 世紀に繁栄の頂点に達したが、その後、ティームールによる町の破壊により、町は荒廃したとされる。

ガージャール朝時代以後、街道が整備され、鉄道が通り、灌漑設備の整備が進み、農業、工業分野での開発が行われるようになった。その結果、テヘラン市南部の生産拠点として人口が急激に増えている。

³⁵⁰ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.488-489.

³⁵¹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.489-491. *Pazhūhesh-nāme*, p.102.

ヴァラーミーン(Varāmīn)の聖所

- (255) Emānzāde ‘Abdollāh (写真 683,684,685)

Varāmīn – Khiyābāne Emānzāde ‘Abdollāh

Emānzāde ‘Abdollāh b. Seyyed ‘Alī b. Qāḍī al-Qoḍāt Sharaf al-Dīn Seyyed Ebrāhīm b. Seyyed Esmā‘īl b. Seyyed Ja‘far Ṣaḥāḥ b. Seyyed ‘Alī b. Abū ‘Abdollāh Ḥosein al-Aṣghar b. Zein al-‘Ābedīn

ヴァラーミーンのマスジェド・ジャーメの近く。

現在通りに面している側にも出入り口が作られているが、本来の入り口は反対側にある。その周辺は墓地になっている。現在は埋葬は行われていないとのこと。

廟の一室に管理人一家が住んでおり、本来の出入り口の方はこの一家の生活スペースのようになっている。

建築年代はサファヴィー朝時代に遡るとされている³⁵²。

- (256) Emānzāde Seyyed Abī Zeid Ḥoseinī³⁵³ (写真 686,687,688)

Varāmīn – Khiyābāne Qāḍī Ṭabāṭabā‘ī – Khiyābāne Maṣjede Jāme‘

Emānzāde Seyyed Abī Zeid b. Seyyed ‘Alī Kiyākī b. Seyyed ‘Abdollāh b. Seyyed ‘Alī b. Qāḍī al-Qoḍāt Sharaf al-Dīn Seyyed Ebrāhīm b. Seyyed Esmā‘īl b. Seyyed Ja‘far Ṣaḥāḥb. Seyyed ‘Abdollāh b. Sharaf al-Ashraf Fakhr Abī ‘Abd al-Ḥosein al-Aṣghar b. Zein al-‘Ābedīn

ジャヴァード・アーバード区にあるの Emānzāde Hādī の父親とされる。

ヴァラーミーンのマスジェド・ジャーメの南にある小さな廟。エマームザーデの墓の置かれた小さな部屋と土のドームを持つ。

周囲には小さな墓地が広がっている。

ガージャール朝時代の建築と考えられている³⁵⁴。

- (257) Emānzāde Koukab al-Dīn (al-Maṣjed al-Sharīf) (写真 689,690)

Varāmīn – Khiyābāne Shohadā

Emānzāde Koukab al-Dīn b. Zeid b. Yaḥyā b. Emām Mūsā

テヘラン方面からヴァラーミーンへ入ってきた場合のヴァラーミーンの入り口近くだったとのこと。バーザール地区の近く。三叉路になった場所。

³⁵² Sarvqadī, p.185. *Pazhūhesh-nāme*, p.256.

³⁵³ Sarvqadī は、Zeid Abū al-Hasan, *Pazhūhesh-nāme* では、Emānzāde Abū al-Hasan al-Ḥoseinī としているが、ワクフ慈善庁のリストと廟内のズィヤーラトナーメに従い、このように表記する。

³⁵⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.256.

礼拝のための広い空間の片隅に置かれた墓石がエマームザーデのもの。
建築年代はサファヴィー朝時代からアフシャール朝時代にかけてであると
考えられている³⁵⁵。

(258) Seyyed Faḥollāh (写真 691,692,693)

Varāmīn – Khiyābāne 15 Khordād

ヴァラーミーンの中心近く、商店が建ち並ぶ通り沿いのマスジェドの一角。
殉教者墓地の中。

現在の建物は最近建築された新しいもの。金属製のザリーが置かれ、墓地
を訪れた人がズィヤーラトをしていく。特に女性たちが多く訪れ、長時間祈り
を捧げていくとのこと。

取り壊される前の古い建物は、サファヴィー朝時代の遡るものであったと
考えられている³⁵⁶。

(259) Shāh Ḥosein³⁵⁷ (写真 694,695,696)

Varāmīn – Khiyābāne 15 Khordād

Emāmzāde Abū ‘Abdollah al-Ḥosein b. Emām Mūsā b. Ja‘far

二階建てのホセイニーエの一角。一階部分奥の小部屋。

近年、全体的に改修が行われている。オリジナルは7/13世紀のものと考え
られている³⁵⁸。

ザリーはなく、部屋の中に置かれたアラムとギャフヴァーレにダヒールが
結ばれている。

(260) Emāmzāde Yaḥyā (写真 697,698)

Varāmīn - Rūstāye Kohne-gol

Emāmzāde Yaḥyā b. ‘Alī al-Seyyed b. ‘Abd al-Raḥman al-Shajarī b. Abū
Moḥammad al-Qāsem b. Abū Moḥammad al-Ḥasan b. Zeid b.Emām Ḥasan Mojtabā

現在はヴァラーミーン市の一部になっている。

周囲は墓地。

非常に古い漆喰細工とタイルで飾られた廟内。一部ははぎ取られ、墓石は
エルミタージュ、メフラープはメトロポリタンへ持ち去られてしまい、また、

³⁵⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.256. Sarvqadī, p.188. *Banā-hāye Āramgāhī*, p.71. ここでは、モンゴル時代に遡ることが
できる可能性について指摘されている。

³⁵⁶ *Pazhūhesh-nāme*, p.256. Sarvqadī, p.181.

³⁵⁷ Moṣṭafavī と Sarvqadī によると、Shāhzāde Ḥosein となっている。

³⁵⁸ Moṣṭafavī, p.261. Sarvqadī, p.182. *Pazhūhesh-nāme*, p.256. *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.147-148.

イラン国内のいくつかの美術館にも展示されている³⁵⁹。現在、文化財保護庁などにより修復が行われている。663/1264-5年の日付の書かれたタイルが見られる。

現在残る廟は8/14世紀に遡ると考えられている³⁶⁰。

周辺の人々のエマームザーデへの崇敬の念は篤く、宗教的な記念日には人が多く集まってくるとのこと。

(261) Emānzāde Sakīne Bānū (写真 699,700,701,702)

Varāmīn – Ājorbast – Rūstāye Sakīne Bānū

道路の中央に位置する廟。2003年に内部の改修が行われた。

廟の中央には Emānzāde Sakīne Bānū の墓とそれを覆う金属製のザリー。

廟に入って左手に小部屋があり、ここにも緑の布をかけた墓石がある。

Emānzāde Sakīne Bānū の子どもの墓と言われ、女性たちは Emānzāde Sakīne Bānū のザリーに触れた後、この部屋へ入り、コーランやドアーを詠んだり、礼拝を行ったりして時間を過ごしている。男性はほとんどこの部屋には入らないとのことであった。

廟の周囲には墓地は見られない。

廟の建築年代は、サファヴィー朝時代であるとされている³⁶¹。

(262) Emānzāde ‘Alī (写真 703,704)

Varāmīn – Ājorbast

Emānzāde ‘Alī b. Sharaf al-Dīn Qāḍī al-Qoḍāt Seyyed Ebrāhīm b. Seyyed Esmā‘īl al-Monaqqedī b. Seyyed Ja‘far Ṣaḥaḥ b. Seyyed ‘Abdollāh b. Sharaf al-Ashraf Fakhr al-‘Alāmīn al-Qodvat Fī al-Feqf va al-Nesāle al-Maḥdad Abū ‘Abdollāh al-Ḥosein al-Aṣghar b. Zein al-‘Ābedīn

Emānzāde Sakīne Bānū から村に入って中心部。

ヴァラーミーンの Emānzāde ‘Abdollāh の父親。同じ村にある、Emānzāde Sakīne Bānū とは何の関係もないとのこと。

金属製の大きなザリーが置かれただけの簡素な廟。周囲にはいくつかの墓が見られるが、村の墓地とは関係ない。

ガージャール朝時代に建築されたと考えられている³⁶²。

³⁵⁹ Moṣṭafavī, p.261.

³⁶⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.256. cf. Qare Chānlū, "Emānzāde Yahyā (Varāmīn)", *Mitrāthe Jāvīdān*, 2, 1372H.S./1993-4, pp.70-73. *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.222-223.

³⁶¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.256. Sarvqadī, p.180. *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.125-126.

³⁶² Sarvqadī, p.187. *Pazhūhesh-nāme* (p.253)によるとサファヴィー朝時代の建築。

(263) Emānzāde Hosein- Reḡā (写真 705,706,707,708,709)

Varāmīn – Gabrestāne Hosein- Reḡā

同名のヴァラーミン市の墓地の中。

金属製の新しいザリーが置かれた狭いハラム。その脇に小部屋があるが特に何も置かれてはいない。ズィヤーラトナーメとシャムダーンが置かれているだけだが、廟を訪れた人はここで祈るとのこと。

Emānzāde Hosein- Reḡā の隣にも小さな廟が建てられている。こちらは Seyyed Ebrāhīm の墓で、ホセイインレザー廟の修理を行った人物であるとのこと。1357S.H./1979 年没。この廟もズィヤーラトガーになっており、人々が祈りを捧げる場所となっている。

廟の建築年代はモンゴル時代に遡ると考えられている³⁶³。

(264) Emānzāde Seyyed Esma‘īl (写真 710,711,712)

Varāmīn – Kahrīzake Bakhtiyārī

Emānzāde Seyyed Esma‘īl az navādegāne Emām Ḥasan Mojtabā

以前は村の中心に近かった場所。現在は工場などが建ち並ぶ地区の奥になっており、更に塀で廟を完全に囲ってしまったため、外からは廟の存在が分かりにくくなっている。

木製のザリーが置かれた小さなハラム。

廟の前にいくつかの墓は見られるが、村の墓地とは違うとのこと。

廟の敷地内に管理人一家が住んでおり、廟の清掃などを行っているとのこと、手入れが非常に行き届いている。ズィヤーラトに訪れる人は最近減っているとのことであった。

(265) Emānzāde Ebrāhīm (写真 713,714)

Varāmīn - Rūstāye Valī ābād

Emānzāde Ebrāhīm az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

村はずれにある広い墓地の中。

金属製のザリーが置かれた部屋とドームを持つだけの簡素な小さな廟。

廟の裏手には村のホセイニーエが建設されており、墓地の入り口近くにはガッサールハーネ。

ヴァリー・アーバードだけではなく周辺の村からも人が多く訪れるとのこと。

廟のオリジナル部分の建築はサファヴィー朝時代に遡るとされている³⁶⁴。

³⁶³ Sarvqadī, p.177.

³⁶⁴ Sarvqadī, p.172. *Pazhūhesh-nāme* (p.255)ではガージャール朝時代となっている。

(266) Emānzāde Bībī Zobeide (写真 715,716,717)

Varāmīn - beine Rūstāye Dāvūd ābād va Rūstāye Sa'd ābād

Emānzāde Bībī Zobeide Khātūn b. Emām Mūsā b. Ja'far

村の外の畑の中。敷地内にいくつかの墓は見られるが、新しいものはほとんどない。

ザリーはなく、布をかけた墓石が置かれている。しかし、木製のザリーの一部らしきものが廟内に置かれており、そこにダヒールが結ばれている。

廟の外にもシャムダーンが設けられているが、そちらよりも廟内でろうそくを灯す人が多いように見える。

廟の建築はガージャール朝時代とされている³⁶⁵。

(267) Emānzāde Shāhzāde 'Abdollāh (写真 718)

Varāmīn - Rūstāye Dāvūd ābād

Emānzāde Shāhzāde 'Abdollāh b. Emām Mūsā b. Ja'far

村はずれ。ヴァラーミンから来た場合の村の入り口。

村の墓地の中。墓地を売ったお金とワクフからの収入で比較的安定した収入があるとのことで、革命後、何度か増改築を繰り返している。オリジナルはガージャール朝時代の建築とされている³⁶⁶。

(268) Emānzāde 'Alī (写真 719,720)

Varāmīn - Rūstāye Aḥmad ābāde Ḥalvāi

Emānzāde 'Alī b. Ja'far³⁶⁷

村からは随分と離れた荒地の中。廟の脇には小川が流れている。

鉄製のザリーが置かれた部屋があるだけの小さな廟。

人は良く通ってきているらしく、よく手入れがされている。改修予定なのか、煉瓦が廟の前に積み上げてある。

廟はガージャール朝時代の建築とされる³⁶⁸。

(269) Emānzāde Zein al-'Ābedīn (写真 721,722)

Varāmīn - Rūstāye Bāghe-khāṣṣ

Emānzāde Zein al-'Ābedīn az navādegāne Emām Zein al-'Ābedīn

³⁶⁵ Sarvqadī, p.175. *Pazhūhesh-nāme*, p.254. *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.109-110.

³⁶⁶ Sarvqadī, p.184. *Pazhūhesh-nāme*, p.254.

³⁶⁷ *Pazhūhesh-nāme*, p.254. 廟の正面入り口脇には Emānzāde 'Alī b. 'Abdollāh とも書かれており、どちらが正しいのか、参詣者に聞いたが分からず、また管理人がいなかったために確認が取れなかった。

³⁶⁸ *Pazhūhesh-nāme*, p.254.

村はずれの墓地の中。周囲には畑が広がっている。
緑の布をかぶせた木製のザリー。
近年、廟の増改築などが行われた。
オリジナルの建物はガージャール朝時代に建築されたとされている³⁶⁹。

(270) Emāmzāde Moḥsen (写真 723,724,725,726)

Varāmīn - Rūstāye Aḥmad ābād (Bājek)

(北緯 35 度 19 分 60 秒、東経 51 度 36 分 57 秒、標高 927 メートル)

村からは離れた畑の中。近くに大きなガルエの跡。

改修中、廟の周囲にいくつかの墓が見られる。

2007 年には改修が終わり、ドームが緑色に変わり、ザリーの無いエマームザーデの墓石が置かれ、礼拝のための部屋が入り口を入れてすぐに設けられている³⁷⁰。

(271) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 727,728,729,730)

Varāmīn - Rūstāye Aḥmad ābād (Bājek)

(北緯 35 度 19 分 58 秒、東経 51 度 37 分 04 秒、標高 934 メートル)

エマームザーデ・モフセンから 500 メートルほど離れた畑の中。

ドームが落ちてしまい、とりあえず平屋根になっている³⁷¹。

廟の周囲を塀が巡らしてあり、管理人を呼び出さないと廟に入ることができない。村の女性たちが常に何人か廟内で過ごしている。

2007 年には改修が済み、青い唐草文様タイルのドームが乗っていた。

(272) Emāmzāde Seyyed Ḥosein (写真 731,732)

Varāmīn - Rūstāye Aḥmad ābād (Bājek)

村の中。墓地の中の廟。

木製のザリーが置かれた小部屋だけの小さな廟³⁷²。

木曜日には墓参りに訪れる人で廟は一杯になる。

(273) Emāmzāde Qāsem (写真 733)

Varāmīn - Rūstāye ‘Amr ābād

Emāmzāde az navādegāne Emām Ḥasan Mojtabā

³⁶⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.254. Sarvqadī, p.179.

³⁷⁰ Sarvqadī, p.189.

³⁷¹ Sarvqadī, p.186. これによると、1320H.S./1941-2年に篤志家によってドームが作られ、1370H.S./1991-2年に修理が行われたとなっているが、筆者が2003年に訪れたときには、完全にドームは失われてしまっていた。

³⁷² Sarvqadī, p.180.

現在は、ヴァラーミン市の一部のようになっている村の中心部。墓地の中。

古い廟を取り壊し、大規模な改築が行われている。

木曜日の午後のみ廟の扉を開くとのことで、廟内を見ることは叶わなかった³⁷³。

(274) Emāmzāde Bībī Zobeide (写真 734)

Varāmīn - Māfī ābād – Farībā-shahr

Emāmzāde Bībī Zobeide b. Emām Mūsā b. Ja'far

ヴァラーミン市と Qarachak 市の間にあって、急速に人口を増やしている町。

町の墓地の中。増改築が始まったところ。

廟の正面にシャムダーンが置かれており、ここにダヒールを結ぶ人も見られる。

近くにある女子高校の学生や、買い物帰りの女性などが通りがかった際にズィヤーラトをしていく様子がよく分かる。

廟の建築は 700 年ほど前まで遡るとのこと³⁷⁴。

(275) Emāmzāde Gheibī (写真 735)

Varāmīn - Rūstāye Šāleḥ ābād

村の中心近く。二人の子供が葬られていると言いつたが、血統や名前は明らかではなかった。7～8 年前に土地の所有者がズィヤーラトガーに工場を建ててしまったので、現在はその痕跡はまったく残っていないとのこと。

工場主が許可を与えてくれなかったため、ズィヤーラトガーのあった場所を見ることはできなかった。

(276) Emāmzādegān Ṭāher va Moṭahhar (写真 736,737)

Varāmīn - Kheir ābād

Emāmzādegān Ṭāher va Moṭahhar b. Emām Mūsā b. Ja'far

現在はヴァラーミン市の衛星都市のようになっている村。

村の墓地の中。廟の向かいにはホセイニーエ。

建物は近年、増改築が行われ、礼拝のための部屋などが広く作られている。金属製のザリーの置かれた小さなハラムにはアーイーネカーリーが施されて

³⁷³ Sarvqadī, p.188.

³⁷⁴ Sarvqadī, p.175. *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jeld avval, pp.111-112.

いる。

オリジナルの廟の建築年代はサファヴィー朝時代とされる³⁷⁵。

(277) Shāhzāde Moḥammad (写真 738,739)

Varāmīn - Rūstāye Ījdān

(北緯 35 度 16 分 99 秒、東経 51 度 34 分 10 秒、標高 886 メートル)

Shāhzāde Moḥammad az Oulāde Moḥammad al-Ḥanīfe b. ‘Alī b. Abī Ṭāleb

村からは少し離れた場所にある墓地の中。

泊まり込みでズィヤーラトを行う人たちのためのザーエルサラヤ台所などが用意されている。

青いタイルのドームを持つ大きな廟。碑文には 1303/1885-6 年に建築されたと書かれている。オリジナルはザンド朝時代のもの³⁷⁶。

(278) Emānzāde Yūsef Reḡā (写真 740)

Varāmīn – Rūstāye Yūsef Reḡā

村の入り口にある墓地の中。周囲は畑とバーク。

木曜日の午後しか扉を開けないとのことで、中は確認できず。

1382S.H./2003 年に改修が行われた。

廟の建築年代は、3/9 世紀まで遡ると考えられている³⁷⁷。

(279) Emānzāde Ebrāhīm va Do Bībī (写真 741,742,743,744,745)

Varāmīn - Rūstāye Qal‘e Khāje

(北緯 35 度 15 分 96 秒、東経 51 度 39 分 38 秒、標高 900 メートル)

村はずれの墓地の中。

正面から向かって右手が Emānzāde Ebrāhīm、左手が二人の Bībī。この二人は姉妹とのこと³⁷⁸。Emānzāde Ebrāhīm と彼女たちの関係ははっきりしない。

ヴァラーミン市内や周辺の農地で働くアフガン人が多く住む。

(280) Emānzāde ‘Oun ma‘rūf be Shaṣṭ (写真 746)

Varāmīn – Rūstāye Rostam ābād

血統に関しては、Emānzāde ‘Oun b. Zeid b. Emām Ḥasan Mojtabā あるいは Emānzāde ‘Oun b. Sepāhsālār b. Emām Ḥasan Mojtabā の二種類が伝わっている。

村からは離れた畑の中の廟。廟の周囲に墓が点在しているが、特に村の共

³⁷⁵ Sarvqadī, p.183. *Pazhūhesh-nāme*, p.255.

³⁷⁶ Sarvqadī, p.190. *Pazhūhesh-nāme*, p.254. *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.206-207.

³⁷⁷ Sarvqadī, p.194. *Pazhūhesh-nāme*, p.255.

³⁷⁸ Sarvqadī, p.173.

同墓地というわけではないとのこと。

Emānzāde ‘Oun と彼に付き従っていた 60 人が敵に殺された後、ここに葬られたと言われている。

廟はガージャール朝時代の建築³⁷⁹。

(281) Emānzāde ‘Alī (写真 747,748,749)

Varāmīn – beine Rūstāye Qal‘e Khāje va Rūstāye Rostam ābād

(北緯 35 度 16 分 99 秒、東経 51 度 39 分 14 秒、標高 902 メートル)

畑の中に建つ廟。村からは距離がかなりある。

ドームや壁の一部は崩れ落ち、床もむき出しのままであるが、ドームの上にはエマーム・ホセインの旗が飾られ、廟内にはろうそくを灯した跡が多数見られる。周囲の村の人々がシャファーを求めて多く訪れるとのことであった。

2007 年に訪れたときには補修が済んでいた。

ジャヴァード・アーバード(Javād ābād)の聖所

(282) Emānzāde Ghā‘eb (写真 750,751)

Javād ābād

小路の傍らの小さな白いドーム。民家にくっつくようにして立っている。

新しい墓石と、沢山のろうそくの跡。

毎日のように近所の人が訪れて、ろうそくを灯し、祈っていくとのこと。

(283) Emānzāde Shāhzāde Qāsem (写真 752,753)

Javād ābād - Rūstāye Khāled ābād

村はずれの墓地の中。改修中。

天井に太陽婦人をモチーフにした絵などが見える。

大きな古い木のザリー。

ガージャール朝時代の建築³⁸⁰。

(284) Shāhzāde ‘Abdollah (写真 754,755)

Javād ābād - Rūstāye Damz ābād

Emānzāde Shāhzāde ‘Abdollah b. Emām Zein al-‘Ābedīn

村はずれの墓地の中。

近年の建築による新しい建物。村のマスジェドとなっている廟内は金属製

³⁷⁹ Sarvqadī, p.184. *Pazhūhesh-nāme*, p.253.

³⁸⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.254.

のザリーを中心に、ナマーズ用の空間が広がっている。

オリジナルの建築はガージャール朝時代のもの³⁸¹。

(285) Emāmzādegān ‘Ein al-Dīn, Zein al-Dīn va Ghein al-Dīn (写真 756,757,758)

Javād ābād – Rūstāye ‘Alī ābāde Moḥīṭ

Emāmzādegān ‘Ein al-Dīn, Zein al-Dīn va Ghein al-Dīn farzandāne Ṣāleḥ b.

Emām Mūsā b. Ja‘far

タジュリーシュのエマームザーデ・サーレフの子供たち。

村の中の廟。周囲は墓地。

三つの部屋にそれぞれ大きな木製のサンドウグが置かれているが、どれが誰のものかは特定されていない。

ガージャール朝時代の建築とされる³⁸²。

(286) Emāmzāde Seyyed (写真 759,760)

Javād ābād – Rūstāye Sūre

村はずれの畑の中。周囲の畑はワクフ地であるとのこと。

二人の兄弟が埋葬されていると言われているが、血統や名前などは伝わっていない。ザリー等を持たない二つのコンクリートの棺が置かれた廟内。床は張られておらず、ろうそくをともした跡やダヒールは見られない。現在の建物の建築はそれほど古いものではない³⁸³。村の人によると、ワクフ慈善庁が廟の修理をするというので期待していたが、廟を直して欲しいと思っている人々が金を出せば修理をしてやるという態度なので困っているとのこと。

Emāmzāde ‘Alī が畑越しに見える距離にあり、今はそちらヘズィヤーラトに行く人の方が多い。

(287) Emāmzāde ‘Alī (写真 761,762)

Javād ābād – beine Rūstāye Sūre va Rūstāye Haft Chūbe

(北緯 35 度 15 分 61 秒、東経 51 度 41 分 54 秒、標高 888 メートル)

村と村の間に広がる畑の中にある廟。敷地の一角を水路が流れている。

廟の敷地の正面にタッペ。廟の周囲は墓地となっている。

廟は以前のもを取り壊し、近年建てられた新らしいもの³⁸⁴。

近隣の村の人々が木曜日などは多くズィヤーラトを訪れるとのこと。

³⁸¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.254.

³⁸² Sarvqadī, p.184. *Pazhūhesh-nāme*, p.253.

³⁸³ *Pazhūhesh-nāme*, p.253.

³⁸⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.253.

(288) ? (写真 763)

Javād ābād – Rūstāye Haft Chūbe

Emānzāde ‘Alī の位置を村で訪ねていた中で教えられた聖所。

革命直後、盗掘により崩壊してしまったがズィヤーラトガーがあったという。現在は瓦礫の山。ワクフ慈善庁に再建を要請しているがなしのつぶてであるとのこと。

名前は不明。村の人でもここに廟があったことを知らない人も多い。

(289) Emānzāde ‘Abdollāh (写真 764)

Javād ābād – Rūstāye Abū al-‘Araḍ

村の入り口脇にある廟。周囲は墓地。

改修中であるが、オリジナルはガージャール朝時代の建築とされる³⁸⁵。

(290) Emānzāde Shāh Tark (写真 765,766)

Javād ābād - Rūstāye Tajare

村へ入る道の脇に建つ廟。周囲は墓地。敷地の外には畑が広がる。畑よりも少し高くなっている。

近年改修が行われた。オリジナルもそれほど古いものではなかった³⁸⁶。

改修途中で床がまだ剥き出しではあるが、ろうそくを灯した跡の残る小皿が壁際にいくつも積まれ、人々が訪れている様子は窺える。

(291) Emānzādegān Mahrūm va Mazlūm³⁸⁷ (写真 767,768)

Javād ābād - Rūstāye Āb bārīk

村はずれの墓地の中。殉教者墓地が設けられており、廟内にも殉教者の肖像写真などが多数置かれている。

ザリーのない緑の布をかけられた棺が一つハラムの中心に置かれている。

廟を正面から見ると、両側にも小部屋があるがこれらはハラムとは直接繋がっていない事務室など。

埋葬されている人物については詳細は分からないが、兄弟と言われている。

村の人々の信仰を集めており、午前中の仕事を終えた人などが立ち寄り、ズィヤーラトをしたり、礼拝を行っていく。最近村にアフガン人が増えおり、彼らの中にも廟に立ち寄る人が多いとのことであった。

³⁸⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.253.

³⁸⁶ *Pazhūhesh-nāme*, p.252. Sarvqadī の記述はまだ改修が行われる前で現在はドームは一つであるが、二つのドームを持っていたこと、壁やドームの崩落が進んでいたことが窺える。(p.183)

³⁸⁷ Sarvqadī, p.189.

(292) Emānzāde Bāgh (写真 769)

Javād ābād - Rūstāye Āb bārīk

村はずれにあるごく小さな廟。周囲は畑が広がっている。

木曜日の午後のみ扉を開けるとのことで中を見ることはできなかった。

(293) Emānzāde ‘Alī (写真 770,771,772)

Javād ābād – Rūstāye Ja‘far ābāde Jangal

(北緯 35 度 13 分 21 秒、東経 51 度 38 分 87 秒、標高 859 メートル)

Emānzāde ‘Alī Kiyāī b. Ebrāhīm b. Esma‘īl al-Montaqedī b. Ja‘far b. ‘Abdollāh al-‘Aqīqī b. Ḥasan al-Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn

村はずれの墓地の中。

周囲は畑とバーク。廟からすぐ近くに古いヤフチャールが見える。

Emānzāde Hādī の祖父であると言われている。ダイラム朝時代 Fakhr al-Doule の時代に兄弟である Aḥmad と共にレイとヴァラーミンへやって来たと言われている³⁸⁸。

建物そのものはそれほど古いものではない³⁸⁹。

鉄製のザリーにはダヒールや南京錠が多く見られ、また古い木のズィヤーラトナーメもザリーにかけられている。

(294) Emānzāde Hādī (写真 773,774,775)

Javād ābād – Rūstāye Heṣār Qādī

(北緯 35 度 10 分 46 秒、東経 51 度 41 分 35 秒、標高 848 メートル)

Emānzāde ‘Alī al-Hādī b. Zeid Abū-al-Ḥasan va az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn³⁹⁰

村から外れた墓地の中。ジャヴァード・アーバードの人々の信仰を集めており、寄付金などで大規模な改修工事が行われている。しかし、2003 年に訪れたときから 2007 年に訪れるまでほとんど工事は進んでいなかった。

キャンの Emānzāde Dāvūd の先祖だと言われている。

ハラムには金属製のザリーが置かれているが、その奥に小部屋があり、ここに Emānzāde Hādī の母と妻が葬られている。緑の布をかけられた棺が母親である Zobeide Khātūn であり、その傍らに小さな墓石だけが見えるのが妻の Sakīne Khātūn。廟を訪れる女性たちは、まず Emānzāde Hādī にズィヤーラトを

³⁸⁸ Sarvqadī, p.187.

³⁸⁹ Pazhūhesh-nāme, p.252.

³⁹⁰ Sarvqadī, p.191. Emānzāde Hādī のシャジャレやキャンの Emānzāde Dāvūd らエマームザーデたちとの関係は系譜上では判断することが難しいが、土地の人たちはこうした関係を信じている。また、廟内のズィヤーラト・ナーメなどにはシャジャレが書かれておらず、確認ができなかった。

行った後、こちらの部屋を必ず訪れ、祈りを捧げるとのこと。女性たちがナズリーを配ったり、ドアーを読んだりするのもこちらの部屋で行われる。

ガージャール朝時代の建築³⁹¹。

(295) Davāzdah Emām (写真 776,777,778)

Javād ābād – Siyāh-kūh

現在は自然保護区の中にある廟。

一番近くの村からである Siyāh-kūh から随分と離れているが、人は良く訪れているらしく、廟の内部などもよく手入れがされており、常にろうそくやランプが灯されている。また、寄付のためのお金も置かれている。ザリーも大きな金属製の物が置かれている。

どのような人物が葬られているかは明らかではない。

敷地内に井戸が掘られているが、現在は水は枯れているとのこと。

ガージャール朝時代の建築と見なされている³⁹²。

(296) Emāmzāde Bābā Aḥmad³⁹³ (写真 779,780,781)

Dākhele Heḫāzate Moḥīte Zīst

自然保護区の中。Davāzdah Emām から Qaşre Bahrām へ向かって 30 キロメートルほどの道沿い。³⁹⁴

石積みの一部屋だけの廟だが、盗掘により崩れてしまっている。屋根は完全に崩れ落ち、塀が一部残っているのみ。

墓は石を積み上げたもの。

人が訪れている様子はまったく見られない。

(297) Emāmzāde ‘Abdollāh (写真 782,783,784)

Javād ābād – beine Rūstāye Qal‘e Boland va ‘Asgar ābād

(北緯 35 度 10 分 33 秒、東経 51 度 47 分 76 秒、標高 827 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollāh b. Emām Mūsā b. Ja‘far

周囲は墓地。畑や果樹園を潤すための井戸が掘られ、廟の周囲を水路が巡っている。

700 年ほど前の建築であるが、近年改修が行われている³⁹⁵。

³⁹¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.251.

³⁹² *Pazhūhesh-nāme*, p.251. Sarvqadī, p.187.

³⁹³ 土地の人々は Emāmzāde Hemmat と呼んでいるが、資料ではこのようになっている。

³⁹⁴ 正確にはセムナン州に属している可能性もあるが、資料ではどちらも判断しがたいため、とりあえず、ヴァラーミーンからのアクセスになることからヴァラーミーン郡の聖所とした。

³⁹⁵ Sarvqadī, p.184.

古い木のザリーの外側に金属製のザリー。

(298) Emānzāde Se Bozorgvār (写真 785,786)

Javād ābād – Rūstāye Heṣār Ouliā

ワクフ慈善庁のリストでは Emānzāde Se Bozorgvār であるが、地元の人はこの名前をまったく知らないと言う。廟の修理を行っていた人や、周辺に住む人に聞いてみたところ、この廟を Emānzāde Anṣārī と呼んでいるというが、これも名前はよく知らないけどこう言うのでは？という程度ではっきりしない。

村の外れの墓地の中。修理中。

村の人口自体が減っており、廟に関心を持つ人も減っているとのことであった。

(299) Emānzāde Solṭān Seyyed Maḥmūd (写真 787)

Javād ābād – Rūstāye Khāve

村はずれの墓地にある大きな廟。

ハラムの一角に木製の大きなザリーが置かれている。

近隣の村の人々の信仰を集めているため、廟の手入れを行ったり、サッカーハーネを作ったりすることができるとの説明であった。

サファヴィー朝時代の建築とされる³⁹⁶。

(300) Emānzāde Bībī ma'rūf be Khāhare Bībī (写真 788,789)

Javād ābād – Rūstāye Khāve

(北緯 35 度 13 分 08 秒、東経 52 度 43 分 70 秒、標高 849 メートル)

村はずれの畑の中。

ハラムには緑の布をかけた棺。その正面にも彼女の従者だったという女性の墓があるが、姉妹という人もいる。

現在は鍵を閉めているが、木曜日になると扉が開かれ、女性たちが訪れ、ランプやろうそくを灯し、祈りを捧げるとのこと。

廟はガージャール朝時代のもの³⁹⁷。

(301) Emānzāde 'Alī (写真 790,791,792,793)

Javād ābād – Rūstāye Khāve

(北緯 35 度 12 分 08 秒、東経 51 度 43 分 53 秒、標高 847 メートル)

Emānzāde Bībī よりも街道から見て畑の中に入ったところ。道が付けられて

³⁹⁶ *Pazhūhesh-nāme*, p.252. Sarvaqāḍī, p.182.

³⁹⁷ *Pazhūhesh-nāme*, p.251. Savaqḍī, .177.

いないので、畑を突っ切らなくてはならない。

Emānzāde Bībī よりも小振りな廟。

こちら木曜日のみ扉を開くとのこと。緑の布をかけた棺の上にランプが並べられており、これに火を灯して祈る人が多く訪れるとのこと。ここは Emānzāde ‘Alī のはずだが、棺を覆う緑の布は、なぜか、「Emānzāde Dāvūd へのワクフ」となっている。

ガージャール朝時代の建築³⁹⁸。

(302) Emānzāde Salīm (写真 794,795)

Javād ābād – Rūstāye Ḥasan Beik

Emānzāde Salīm b. Emām Zein al-‘Ābedīn

村はずれの墓地の中。

金属製のザリーが置かれたそれほど広くないハラム。

25 年ほど前、エマームザーデに対する信仰篤い村の人によって改修が行われたとのこと。オリジナルの建築年代は不明³⁹⁹。

ハラムへの入り口右側にオリジナルの頃のものと考えられている古いアーブギーネがはられている。

(303) Emānzāde Ebrāhīm (写真 796,797)

Javād ābād – Rūstāye Moḥammad ābāde ‘Arabhā

Emānzāde Ebrāhīm b. Aḥmad b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村の入り口脇にある廟。墓地の中。

廟内に礼拝所・ホセイニーエも設けられていて、村の人がズィヤーラトや礼拝によく訪れているとのこと。ハンマームも設けられていたが、現在は使われていない。

サファヴィー朝時代の建築⁴⁰⁰。

ピーシュヴァー(Pīshvā)の聖所

(304) Emānzāde Ja‘far (写真 798)

Pīshvā

Emānzāde Ja‘far b. Emām Mūsā b. Ja‘far

町外れの丘の上。廟の周囲は墓地。

³⁹⁸ *Pazhūhesh-nāme*, p.251.

³⁹⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.252. Sarvqadī, p.181.

⁴⁰⁰ Sarvqadī, p.173.

ピーシュヴァー周辺でもっとも人々が集まる聖所であるとのこと。しかし、現在のよう規模になったのは革命後のことであるとのこと。

青いタイルのドームはサファヴィー朝時代シャー・タフマースプの頃の建築で、その後ガージャール朝時代ファトフアリー・シャーの頃にも増改築が行われた。革命後、墓地を整備し、その収益で商店、マスジェド、図書館、ザールサラーなどを建設。増改築工事は現在も続いている⁴⁰¹。

(305) Emāmzāde Ṭāher (写真 799,800,801)

Prshvā – Ṭāher ābād

村はずれの畑の中。墓地の中。

正面から見るときれいに改修が行われているが、廟の後ろから見るとこちら側は手が付けられていない⁴⁰²。

(306) Emāmzāde Ebrāhīm (写真 802,803,804,805)

Prshvā – Rūstāye Salmān ābād

(北緯 35 度 16 分 76 秒、東経 51 度 44 分 06 秒、標高 915 メートル)

Emāmzāde Ebrāhīm az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

村からは距離のある街道沿いの墓地の一角。

古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。2003 年から 2005 年までほとんど工事が進んでいなかった。元の廟もそれほど古い時代のもものではなかった⁴⁰³。

緑の布がかけられた小さな棺が置かれた仮の廟だが、墓地を訪れた人が立ち寄るためにきれいにされている。

(307) Do tan ma'rūf be Shekār (写真 806,807,808)

Varāmīn– Rūstāye Zavvārbīd

村からは離れた畑の中。廟の目の前は用水路が流れている。

古い廟を取り壊して新しい廟を建築中。周囲に墓地もあったようだがはっきりとしない。

村からは随分と離れているが、ろうそくを灯した跡や布をかけたコンクリートの棺の上に置かれた紙幣など、人が訪れている形跡は見られる。

(308) Emāmzādegān Khalīl va Ebrāhīm (写真 809.810,811)

⁴⁰¹ Sarvqadī, p.176. *Pazhūhesh-nāme*, p.255. Moṣṭafavī, pp.261-262. Moṣṭafavī は *ṣaḥn* に古い二本の糸杉があると書いているが、これは革命後の拡張工事の中で切り倒されたとのことである。エマームザーデ事務所の人に尋ねても、どこに糸杉があったのかははっきりと分からなかった。 *Banā-hāye Āramgāhī*, p.111.

⁴⁰² *Pazhūhesh-nāme*, p.255.

⁴⁰³ Sarvqadī, p.172. *Pazhūhesh-nāme*, p.252.

Varāmīn – Rūstāye Tārand

村の入り口の墓地の中。農業用の水路が流れる脇。

現在の地面の高さよりも階段三段分ほど下がったところにある入り口。廟内には二人分の棺を納めた大きな金属製のザリー。廟は近年、増改築が行われ、礼拝用の施設などが加えられている⁴⁰⁴。

(309) Emāmzādegān Eshāq va Mūsā (写真 812,813,814,815,816)

Pīshvā – Rūstāye Kohnak

Emāmzādegān Eshāq va Mūsā b. ‘Abdollah b. Abū Moḥammad Ḥosein al-Aṣghar b. Abū Moḥammad ‘Abdollah ‘Abbās dar Shahre Rey⁴⁰⁵

村はずれの広い墓地の中。入り口から見て手前が Eshāq (角錐ドーム)、奥が Mūsā (円ドーム)。

Mūsā は増改築済み。Eshāq は改修中。廟の敷地に隣接してホセイニーエも建設されている。

廟のすぐ近くにマスジェドもあるが、礼拝のためにマスジェドではなく廟を訪れる人も多い。

(310) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 817,818)

Pīshvā – Rūstāye Jalīl ābād (Ghiyāth ābād)

Emāmzāde ‘Abdollah b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村からは離れたところにある廟。周囲は墓地。敷地内には畑が作られ、また木が多く植えられているため、夕涼みにやってくる家族連れも多いという。

ワクフ地や信徒からの寄付金が多く、近年、廟を増改築して二階建てにし、マスジェド、ホセイニーエ、ザーエルサラールを新たに建設した。またアーイーネカーリーで廟内を飾り、それ以前の木製のザリーから金属製のザリーに取り替えた。

宗教的な祝祭日などにはザーエルサラールは泊まりがけで祈りに来る人々で一杯になるとのこと。

オリジナルの廟はサファヴィー朝時代の建築⁴⁰⁶。

(311) Emāmzāde Morṭaqā(?) (写真 819,820)

Pīshvā – Rūstāye Jalīl ābād

町の中。現在の保健所の中。

⁴⁰⁴ Sarvqadī, p.178.

⁴⁰⁵ 廟内のシャジャレナーメによればこのようになっているが、Sarvqadī は Emāmzāde Eshāq az navādegāne Emām Ja‘far であり、Emāmzāde Mūsā は az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn であるとしている。(p.174)

⁴⁰⁶ Sarvqadī, p.186. *Pazhūhesh-nāme*, p.252.

保健所職員によると、ここは決して聖所などではなくゴミ捨て場であったとのこと。しかし、村の人によるとズィヤーラトガーであったと言われている。名前に関しては恐らく *Mortadā* であったということであるが、はっきりしないところもある。

(n) パークダシュト区 (*Pākdasht*)

テヘラン-セムナーン街道沿いに広がるパークダシュト郡は、北をダマーヴァンド郡、西をテヘラン市とシャフレ・レイ郡、南をヴァラーミーン郡、西をセムナーン州のギャルムサール郡と接している。

ヴァラーミーンと接してる関係から、歴史的・文化的にヴァラーミーンの情勢の影響を大きく受けてきた。

ヴァラーミーンと接する西部と南部ではジャージロード川の水を利用した小麦・大麦、野菜類、スイカをはじめとする瓜類の生産が行われ、ダマーヴァンドに近い北東部ではザクロなどの果樹栽培が行われている。

セムナーン街道沿いには、セメントや石灰などの工場が点在する。

(312) *Emānzādegān Īsā va Mūsā* (写真 821,822,823)

Rūstāye Khalīf ābād

(北緯 35 度 21 分 76 秒、東経 51 度 49 分 99 秒、標高 985 メートル)

Emānzāde Mūsā b. Emām Mūsā b. Ja'far

村から離れた墓地の中にある廟。その周囲は畑。

平日は人はほとんど訪れないが、木曜日は墓参りを兼ねた人たちで一杯になっている。

修復などが行われているが、オリジナル部分はガージャール朝時代のもの⁴⁰⁷。

(313) *Qadamgāhe Abū al-Faḍl* (写真 824,825)

Rūstāye Sa'īd ābād

(北緯 35 度 22 分 69 秒、東経 51 度 41 分 43 秒、標高 998 メートル)

セムナーン街道からヴァラーミーンへの枝道沿い。樹齢数百年⁴⁰⁸というチェナールの巨木の陰にある小さな廟。

緑色の布をかけた木の台が置かれているが、中に足跡のようなものは見えない。いつ訪れても女性たちが廟の中に座って祈りを捧げていたり、廟の中や外の清掃を行っていたりする。

⁴⁰⁷ *Pazhūhesh-nāme*, p.22. Sarvqadī, p.13.

⁴⁰⁸ 村の人によると樹齢 900 年。

(314) Emānzāde Ouliyā (写真 826,827)

Rūstāye Qouhe Soflā

(北緯 35 度 28 分 80 秒、東経 51 度 39 分 60 秒、標高 1021 メートル)

エマーム・ムーサーの娘の一人の子孫と伝えられている。

村はずれにある廟。周囲より少しだけ高くなった場所。

木曜日の午後のみ扉を開けるとのこと。廟の外壁面はろうそくの煤で真っ黒になっている。

ガージャール朝時代の建築とされるが、ワクフ慈善庁と文化財保護庁の協力により再建計画が立てられているとのことであった⁴⁰⁹。

(315) Emānzāde Ḥamze - Reḍā ma'rūf be Ḥamze Reḍā va Ḥājī Reḍā (写真 828,829)

Rūstāye Khātūn ābād

(北緯 35 度 29 分 62 秒、東経 51 度 38 分 72 秒、標高 1015 メートル)

Emānzādegān Ḥamze va Reḍā az navādegāne Emām Ḥasan Mojtābā

村はずれの墓地の中。

墓参りに訪れた人が立ち寄る廟。

最近改築を行い、ドームを取り替え、礼拝のためのスペースを取り付け、ハラム内部をアーイーネカーリーで装飾した。ザリーも金属製のものに取り替えられ、「非常に美しく立派な廟になった」と評判であるとのこと。

オリジナルはサファヴィー朝時代の建築⁴¹⁰。

(316) Emānzāde Ḥasan (写真 830,831)

Rūstāye Yabar Dāghlān

Emānzāde Ḥasan b. Emām Mūsā b. Ja'far

村の中にある土のドームを持つ小さな廟。拡張工事中。

村の人たちの信仰を集めており、その人々の希望で大きく立派な廟に建て直すのだとのこと。

ガージャール朝時代の建築⁴¹¹。

(317) Emānzāde Ghaffār ma'rūf be Emānzāde Mollā (写真 832,833)

Rūstāye Yabar Dāghlān

村はずれの畑の中。揚水場のすぐ脇。

⁴⁰⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.24. Sarvqadī, p.8.

⁴¹⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.22. Sarvqadī, p.10.

⁴¹¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.23. Sarvqadī, p.10.

土のドームの小さな廟。建物に傷みは見えるが、人々がよく訪れている様子。ザリーがないので、代わりに入り口のドアに沢山結ばれたダヒールと、清掃の行き届いた廟内はろうそくを灯した跡が多く見られる。

廟の建築年代はガージャール朝時代とされる⁴¹²。

(318) Emānzāde Moḥammad (写真 834,835)

Rūstāye Dehe Emām

(北緯 35 度 32 分 04 秒、東経 51 度 42 分 99 秒、標高 1205 メートル)

村はずれの丘の斜面に広がる墓地の中。

金色のドームと二本のゴルダステを持つ大きな廟に増改築が行われるほど、地域の人々からの寄付が多い。

金属製のザリーの置かれたハラムと礼拝のための部屋に分けられ、殉教者墓地などが廟の建物の中にも設けられている。

オリジナルの建築はほとんど残っていないが、ガージャール朝時代のものであったとされる⁴¹³。

(319) Emānzāde Ṭāher (写真 736,837)

Rūstāye Touchāl

Emānzāde Ṭāher b. ‘Alī b. Motahhar az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

村から外れたザクロのバークの中に埋もれた小さな廟。道路から廟を見ることはできないが、廟の傍らのチェナールの巨木を目印にするとのこと。墓地は見えない。

緑の中で過ごすため、夕方や週末になると人々が訪れ、廟の周囲で食事を取ったりお茶を飲んだりして過ごすという。

建物は近年に建てられたもの⁴¹⁴。

(320) Emānzāde Panj ‘Alī (写真 838,839)

Rūstāye Jītou

村から少し離れたところにある墓地の中。周囲から少しだけ高くなった場所。

少し壊れた古い木製のザリーが置かれた廟。人々はザリーを開けてコンクリートの棺の上に直接ろうそくを灯している。

木曜日の午後になると、廟には墓参りを兼ねた人が多く訪れる。

⁴¹² *Pazhūhesh-nāme*, p.23. Sarvqadī, p.14.

⁴¹³ *Pazhūhesh-nāme*, p.23. Sarvqadī, p.15.

⁴¹⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.22. Sarvqadī, p.11.

廟のオリジナルはサファヴィー朝あるいはガージャール朝初期とされるが、改修が行われている⁴¹⁵。

(321) Emāmzāde Dez ‘Alī (写真 840)

Rūstāye Jītou

村からは離れた畑の中。現在、廟はまったく失われ、二本の胡桃の木が残っているのみ。

ジートウの人でもここに廟があったことを知らない人も多い。特に、近年、住民にアフガン人が増え、以前から住んでいた人たちが町へと移って行ってしまっているため、ある程度以上の年齢の人しかここに廟があったことを知らないという。50年ほど前は、人々がよく訪れていたとのこと。

Emāmzāde Panj ‘Alī からこの二本の胡桃の木を見ることができる。

(322) Emāmzāde Chehel Dokhtarān (写真 841)

Rūstāye Jītou

畑の中に残る廟。Emāmzāde Panj ‘Alī から位置を確認できる。

周囲を畑にするために整地をしたりしているうちに廟も壊れてしまったとのこと。埋葬された人を示す墓石や棺などは見られない。

50年ほど前には、ろうそくを持った人々が木曜日になるとこの廟を訪れていたとのこと。

(323) Emāmzāde Seyyed Jalīl (写真 842)

Rūstāye Fīlestān

村の中にある墓地の中。

増改築が行われ、礼拝のためのスペースが設けられた。廟に隣接して殉教者墓地が設けられ、そこにも屋根がかけられている。マスジェドの代わりに礼拝を訪れる人も多いとのこと。

廟のオリジナル部分は、サファヴィー朝時代からガージャール朝時代の建築⁴¹⁶。

(324) Emāmzāde Ebrāhīm (写真 841)

Rūstāye Arambūye

(北緯 35 度 25 分 94 秒、東経 51 度 40 分 89 秒、標高 1022 メートル)

az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

⁴¹⁵ Sarvqadī, p.8. *Pazhūhesh-nāme* においてはサファヴィー朝時代の建築とされている。(p.22)

⁴¹⁶ Sarvqadī, p.9. *Pazhūhesh-nāme* においてはサファヴィー朝時代の建築とだけになっている。(p.21)

村はずれの広い墓地の中。

ドームとその下のハラム部分はガージャール朝時代の建築であるが⁴¹⁷、そこを取り囲むようにマスジェドなどが建設され、現在は、礼拝の時間と木曜日の午後しか扉を開けていない。ザリーの置かれた空間はアーイーネカーリーで装飾されている。

墓参りに来た人が訪れることも多いが、マスジェドにもなっているため、礼拝を目的にここを訪れる人も多いとのこと。

(325) Emānzāde Chehel Dokhtar (Khātūn) (写真 844,845)

Rūstāye Jamāl ābād

村はずれの墓地の中。現在は木曜日のみ扉を開けるとのことで、廟内を見ることはできなかった。

メインのドームの下にある部屋に大きな墓が置かれているのが窓から見える。

また、その後ろの小さなドームの下にも部屋があり、そこにも大きな墓が置かれている。この部屋の窓に鉄柵が取り付けられており、そこにダヒールが結ばれている。

廟や墓地の周囲を松の木が取り囲んでおり、人々が休息のためにもよく訪れるとのことであった。

廟の建築年代はサファヴィー朝に遡ると考えられているが⁴¹⁸、現在、改修のための寄付金を募集しているとのこと。

(326) Emānzāde Borhān al-Dīn (写真 846,847)

Rūstāye Jamāl ābād

村の中にあるズィヤーラトガー。特に廟は作られておらず、石造りの何も書かれていない墓が置かれている。敷地の一角にシャムダーン⁴¹⁹。

現在は敷地の外になっているが、ズィヤーラトガーの管理人の住居スペースになっている場所にトゥートの巨木。

ここを訪れる度、墓の上に花が置かれていたり、シャムダーンにろうそくが灯されたりしており、人が頻繁に訪れていることが分かる。

(327) Emānzāde ‘Abdollah (写真 848,849)

Rūstāye ‘Abbās ābāde Larnī

⁴¹⁷ Sarvqadī, p.8. *Pazhūhesh-nāme*, p.22.

⁴¹⁸ Sarvqadī, p.9. *Pazhūhesh-nāme*, p.25. *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.118-119.

⁴¹⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.25.

(北緯 35 度 24 分 62 秒、東経 51 度 41 分 91 秒、標高 1018 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollah az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

村の外れにある墓地の中。

村の女性たちが訪れ、時間を過ごしている。この村も、近年アフガン人住民が増えているとのことであるが、廟にいる女性たちもアフガン人がほとんどであった。

ガージャール朝時代の建築⁴²⁰。

(328) Emāmzāde Ṭāleb (写真 850,851,852)

Rūstāye Khosrou

Emāmzāde Ṭāleb b. Yūsuf b. Ḥasan b. Emām Zein al-‘Ābedīn

テヘラン-ホラーサーン街道沿いに建つ廟。

廟内での説明によると、父親であるユースフはネハーヴァンド近くで生まれ、敵から逃れるため息子を連れてサブゼヴァールへと向かったが、その途中、レイで息子たちと共に殉教した。

以前は周囲を墓地に囲まれていたが、それを掘り返し、レストラン、マシジドなどを建築中。廟そのものも拡張工事を行っている。

ザリーも新しく取り替えるとのこと。以前は、地下に墓石があり、階段を下りてズィヤーラトを行っていたが、今は地上にザリーを設置して、そこでズィヤーラトを行うようにしている。

オリジナルの廟はガージャール朝時代のものであるが⁴²¹、増改築によりその多くは失われてしまった。しかし、街道を走るバスが休憩所として利用したりするようになり、参詣者は増えたという。

(329) Boq‘e Sheikh Koleinī (写真 853,854)

Rūstāye Kolein

Sheikh Abū Ja‘far Moḥammad b. Ya‘qūb b. Eshāq Koleinī

シャフレ・レイ郡の Sheikh Koleinī の息子。

村の入り口近くの墓地の中。古い廟を取り壊し、新しい廟を建設中⁴²²。オリジナルはガージャール朝時代の建築であった⁴²³。

(330) Emāmzāde ‘Oun ma‘rūf be Sabzpūsh (写真 855,856)

⁴²⁰ Pazhūhesh-nāme, p.25.

⁴²¹ Sarvqadī, p. 11. Pazhūhesh-nāme, p.22.

⁴²² Sarvqadī によると、完成した廟は、ゴルダステ、サフン、下足預かり所、手洗い所その他などのコンプレックスとなっているとのことである。(p.15)

⁴²³ Pazhūhesh-nāme, p.23. Sarvqadī, p.15.

Rūstāye Āfarīn

村はずれの墓地の中。

青緑色のタイルの貼られたドーム。近年改修が行われたが、オリジナルはサファヴィー朝時代にまで遡る⁴²⁴。

金属製のザリーの置かれた廟内では、平日でも近隣の村からの人が祈りを捧げている。

(331) Emānzāde Do tan (Shast sar) (写真 857,858)

Rūstāye Āfarīn

村からは少し離れた場所にある畑の中。周囲には古い墓地が広がっている。

廟の周囲や中は盗掘の穴がいくつもあき、完全に廃墟となっている。人が訪れている形跡は見られない。現在、村に住む人でもこのズィヤーラトガーを知らない人が意外と多い。廟はガージャール朝時代のもの⁴²⁵。

(o) シャフリヤール区 (Shahriyār)

テヘラン州南西部に位置する。西と北をキャラジ、東にテヘランとエスラームシャフル、南にロバーテ・キャリームとサーヴェに囲まれている。

東部を流れていたキャラジ川とその支流の豊富な水量によって、シャフリヤール東部では多くの村が潤い、多くの人口を養うにたる農業を行うことができた。しかし近年、降水量の低下やダム建設により川の水量が減っている。西部は農業に適した川がなかったことから人口も少なく、天水やガナート、井戸に頼った農業が行われていた。

エシュテハールド、ロバーテ・キャリーム、キャラジとの間に街道が走り、テヘランからも近い。そのため、大小様々な規模の生産工場などが作られ、またエスラームシャフルに次ぐテヘランの運輸産業の中心地の一つとなっている。

近年は、イラン各地からテヘランへ移り住もうとする人々が住宅価格の比較的低いこの地域に住むことから、テヘラン州の中でも人口が急激に増えている郡の一つとなっている。

(332) Emānzāde Abū al-Ḥasan va Abū al-Ḥosein ma'rūf be Emānzāde Ḥaḍratīn yā Parnān (写真 859,860)

Shahre Qods – Rūstāye Qal'e Ḥasan-Khān

az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

町からは離れたところにある墓地の中の廟。

⁴²⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.25. Sarvqadī, p.13.

⁴²⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.25.

緑が多く、トイレをはじめとする設備が整っているため、公園代わりに訪れる人も多い。木曜日は墓参りの人などが非常に多いとのこと。

廟の中でろうそくを灯すことは禁止されているが、廟の裏手の壁面を利用してろうそくを灯している。

廟の建築年代はサファヴィー朝に遡るとされる⁴²⁶。

(333) Emāmzāde Esma‘īl (写真 861,862)

Shahriyār – Khiyābāne Enghelāb – Rūberūye Meidāne Keshāvarz

Emāmzāde Esma‘īl b. Emām Mūsā b. Ja‘far

町の中心部、商業地区の中。拡張工事中。廟内はアーイーネカーリーで装飾されている。

廟の裏手には神学校も併設されている⁴²⁷。

町の中心にあることからズィヤーラトに訪れる人も多く、廟内は常に人があふれている。

(334) Emāmzāde Hādī (写真 863,864)

Shahriyār – Kereshte

Emāmzāde Hādī b. Emām Emām Ḥasan Mojtabā

現在はシャフリヤールの一部のようにになっている以前のケレシュテ村の中。古いズィヤーラトナーメや木のザリーが置かれたハラム。木のザリーの外側にさらに金属製の柵が置かれている⁴²⁸。

ザリーの置かれたハラムの外には礼拝のための空間が設けられ、礼拝の時間帯になると近所の人々がズィヤーラトと礼拝のためにやってくる。

エマームザーデの敷地内にはモタヴァッリーのための小さな家もつくられており、代々その仕事を受け継いできたとのこと。

(335) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 865)

Rūstāye Sa‘īd ābād

(北緯 35 度 38 分 77 秒、東経 51 度 10 分 04 秒、標高 1133 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollah az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far⁴²⁹

村からは少し離れた墓地の中。テヘラン-シャフリヤール街道沿い。

木曜日の午後のみ鍵を開けるとのこと。

⁴²⁶ Sarvqadī, p.81. *Pazhūhesh-nāme* ではガージャール朝時代の建築となっている。(p.279)

⁴²⁷ Sarvqadī, p.81.

⁴²⁸ その後、他の廟でも良く見られる形のエスファハーン様式の金属製のザリーに取り替えられたとのことである。(Sarvqadī, p.92)

⁴²⁹ Sarvqadī, p.87.

(336) Emānzāde Bībī Roqaiye (写真 866,867)

Dehe Movīz

村はずれの墓地の中。その周囲をバークが取り囲んでいる。

廟の敷地内には家族用の墓地や、トイレをはじめとする施設、バレーボールのコートまで設けられている。緑が多い場所なので、公園のように人々が訪れるとのこと。

以前の廟を取り壊し、礼拝のための空間を作るために拡張工事を行った。現在は、広い廟の中心にザリーを持たない、緑の布がかけられた墓石が置かれている⁴³⁰。

(337) Emānzāde Ebrāhīm (写真 868,869,870)

Dehestāne Malārd

(北緯 35 度 39 分 62 秒、東経 50 度 57 分 87 秒、標高 1171 メートル)

Emānzāde Ebrāhīm az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

マラールド街道の起点となっている場所。広い墓地の中。

廟は非常に古いものであったが、損壊が激しく、取り壊して新しい大きな廟を建築中。建築途中でも人々が訪れることができるようにザリーはそのままにしているとのこと。

2007 年には新しい廟が外装を除きほぼ完成していた。

(338) Emānzāde Qāsem (写真 871,872)

Rūstāye Bīdgone

(北緯 35 度 37 分 64 秒、東経 50 度 55 分 14 秒、標高 1159 メートル)

Emānzāde Qāsem b. Ṭabāṭabā b. Esma‘īl b. Ebrāhīm b. Ḥasan Mothannī b. Emām Ḥasan Mojtabā⁴³¹

村の外にある丘の中腹。村からは裏側になっており、直接見ることはできない位置。

廟の周囲は墓地。その下では木曜バーザールが開かれている。

最近増改築が行われ、廟にホセイニーエが取り付けられた。オリジナルはガージャール朝時代の建築⁴³²。

シャフリヤールからも人がズィヤーラトにやって来るといふ。

⁴³⁰ Sarvqadī, p.82.

⁴³¹ Sarvqadī, p.89.

⁴³² Pazhūhesh-nāme, p.277.

(339) Emānzāde Khātūn (写真 873,874)

Rūstāye Mehrchīn

村はずれにある墓地の中の廟。

破損が見られる木のザリーが置かれた室内には、きれいに清掃され、壁も塗られ、手入れは行き届いているが、装飾などはほとんどない。床も張られておらず、敷物すら敷かれていない。

(340) Emānzāde Ebrāhīm ma'rūf be Ḥātam Kesh⁴³³ (写真 875,876)

Rūstāye Tork ābād

Emānzāde Ebrāhīm az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

村の入り口近くにある墓地の中。

木のザリーがあるだけの小さな廟。ろうそくを灯した跡が窓枠などに沢山見られる。

(341) Emānzāde Hārūn (写真 877,878)

Rūstāye Kord-amīr

(北緯 35 度 37 分 39 秒、東経 51 度 00 分 49 秒、標高 1153 メートル)

Emānzāde Hārūn b. Emām Mūsā b. Ja'far⁴³⁴

村の外れ近くにある墓地の中。

近年改修が行われた。木曜日の午後のみ扉を開くとのこと。

普段は開かない扉の取っ手にダヒールが結ばれている。

(342) Emānzāde Aḥmad (写真 879,880,881)

Rūstāye Yabūrak

(北緯 35 度 36 分 96 秒、東経 50 度 59 分 70 秒、標高 1142 メートル)

Emānzāde Aḥmad az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far⁴³⁵

村はずれの墓地の中。道路から見ると廟の後ろ姿。

大きなチェナールに囲まれた廟。

中には布をかけた墓石が置かれている。

木曜日の午後のみ扉を開くとのこと。廟の入り口脇にシャムダーンのようなものが設けられており、そこでろうそくを灯したり、ダヒールを結んだりしている。

⁴³³ Sarvqadī, p.80.

⁴³⁴ Sarvqadī, p.91.

⁴³⁵ Sarvqadī, p.81.

(343) Emānzāde Qāsem (写真 882,883,884)

Rūstāye Qaṣabe (Vaḥīdiye)

(北緯 35 度 36 分 04 秒、東経 51 度 01 分 14 秒、標高 1130 メートル)

Emānzāde Qāsem b. Emām Mūsā b. Ja'far⁴³⁶

村はずれにある墓地の中。改修中。

金属製のザリーが置かれた部屋の周囲に、礼拝用の空間が付け足された。

また、廟の正面にアーテシュダーンを模したシャムダーン兼水くみ場が作られ、ろうそくの煤で真っ黒になっていた。

廟と道路を挟んだ向かいに大きなタッペ。

木曜日の午後のみ扉を開くとのこと。

(344) Emānzāde Yaḥyā (写真 885,886)

Rūstāye Bakke

Emānzāde Yaḥyā az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far⁴³⁷

村はずれにある廟。周囲には古い墓が点在している。新しいものはソニー一式のものがほとんど。

廟の前部には礼拝などに使うための部屋が作り付けられているが、工事途中で放棄されている状態であり、ゴミ捨て場のようにになっている。

ハラムには古い木のザリーが置かれており、こちらは清掃もされており、ダヒールが結ばれたり、壁面を利用してろうそくを灯した跡が見られる。

(345) Emānzāde 'Alī-Aftas (写真 887,888)

Rūstāye Bakke

az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far⁴³⁸

村からは少し離れた墓地の中。こちらは現在も使われている。

ドームが乗った真四角な廟。緑の布がかけられたサンドウーグにはダヒールが沢山結ばれている。

(346) Emānzādegān Maḥdī va Ja'far (写真 889,890)

Rūstāye Jouqīn

Emānzādegān Maḥdī va Ja'far az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

村はずれの墓地の中。廟内には木のザリーが二つ。

近年改修が行われ、ホセイニーエが付け加えられた⁴³⁹。

⁴³⁶ 廟にあるシャジャレナーメではこのようになっていたが、Sarvqadīはエマーム・モハンマド・バーゲルの子孫であるとしている。(p.88)

⁴³⁷ Sarvqadī, p.93.

⁴³⁸ Sarvqadī, p.82.

Jouqīn だけではなく周辺の村からも人が集まってくることに加えて、寄付を送ってくる人も多いとのこと。

(347) Emānzāde ‘Abbās ‘Alī (写真 891,892)

Rūstāye Heṣārsātī

Emānzāde ‘Abbās ‘Alī b. ‘Alī b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村はずれの墓地の中。敷地内にはタッペがあり、こちらは現在使われている墓地よりも更に古い時代の墓地。⁴⁴⁰

古い木のズィヤーラトナーメがかけられた木のザリー。大きなアラムが置かれ、そこにダヒールが結ばれている。

セルジューク朝時代の建築に遡ると考えられている⁴⁴¹。

(348) Emānzāde Moḥsen (写真 893,894,895,896)

Rūstāye Khāve

(北緯 35 度 36 分 11 秒、東経 51 度 04 分 27 秒、標高 1118 メートル)

Emānzādegān Moḥsen b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村はずれの墓地の中。墓地に入っすぐのところにある、土のドームを持つ小さな廟。

近隣の人々の信仰を非常に集めている。訪れた人々が灯したろうそくの煤がびっしりと廟内を覆い、廟の扉などにもダヒールがびっしりと結ばれている。

(349) Emānzāde Ja‘far (写真 897,898,899)

Rūstāye Khāve

(北緯 35 度 36 分 04 秒、東経 51 度 04 分 25 秒、標高 1122 メートル)

Emānzāde Ja‘far b. Moḥsen b. Emām Mūsā b. Ja‘far⁴⁴²

Emānzāde Moḥsen の息子。同じ墓地の中の入り口から入って奥の方。わずかに高くなった場所に作られた廟。

こちらも Emānzāde Moḥsen と同じように、廟内が煤で真っ黒になり、蠟のあとがない壁がないほどにろうそくを灯した跡があり、天井からダヒールのよう結ばれた緑の布が多数下がっている。最近改修が行われ、取り付けられた金属製の扉にも多数のダヒールが結ばれている。

墓地の隣には、セルジューク朝時代のものとされるタッペ⁴⁴³。

⁴³⁹ Sarvqadī, p.90.

⁴⁴⁰ Pazhūhesh-nāme によるとセルジューク朝時代のもの。(p.278)

⁴⁴¹ Pazhūhesh-nāme, p.278.

⁴⁴² Sarvqadī はエマームザーデ・モフセンとジャアファルをまとめてカウントしているが(p.84)、ワクフ慈善庁のリストでは別々にカウントされているので、そちらに従った。

(350) Emānzāde Sho‘eib va Dāniyāl⁴⁴⁴ (写真 900,901)

Rūstāye Rāmīn

Emānzāde Sho‘eib va Dāniyāl az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

村はずれの墓地の中。

近年改修が行われているとのことで、ドームの一部に防水措置が執られたり、煉瓦の張り替えなどが行われている。

木曜日の午後のみ扉を開けるとのこと。廟の扉にダヒールが結ばれ、扉脇のくぼみにろうそくを灯した跡が多数見られる。

(351) Emānzāde ‘Abdollāh (写真 902)

Rūstāye Yūsef Ābād Šīrafi

Emānzāde ‘Abdollāh az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far⁴⁴⁵

村の入り口近くにある墓地の中。

木曜日の午後のみ扉を開けるとのこと。中様子は確認できず。

(352) Emānzāde Farkhonde Khātūn (写真 903,904)

Rūstāye Vīre

Emānzāde Farkhonde Khātūn az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

シャフリヤール-ロバーテ・キャリーム街道沿い。村からは少し離れた墓地の中。周囲を木々に囲まれ、街道からは見ることができないようになっている。

古い木のザリーが置かれた廟内は、雨漏りの跡が見えたりしているが、近くの村の女性たちが毎日掃除をしたり手入れをしたりしているとのこと。

キャンの Emānzāde Dāvūd の姉妹と信じられている。

サファヴィー朝時代の建築⁴⁴⁶。

(353) Shāhzāde Ebrāhīm (写真 905,906)

Dehestān Razkān - Rūstāye Arverd

Shāhzāde Ebrāhīm b. Mūsā b. Ja‘far⁴⁴⁷

村はずれの墓地の中。

近年、増築が行われ、ハラムの他にホセイニーエなどが付け加えられている。

⁴⁴³ *Pazhūhesh-nāme*, p.277.

⁴⁴⁴ *Sarvqadī*, p.85.

⁴⁴⁵ *Sarvqadī*, p.87.

⁴⁴⁶ *Pazhūhesh-nāme*, p.278. *Sarvqadī*, p.88. *Sarvqadī* によると、近年改修が行われたとのことである。 *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.126-127.

⁴⁴⁷ *Sarvqadī*, p.80.

墓地の入り口には大きなサッカーハーネが作られているが、鍵がかかっており使用できない。

廟は木曜の午後のみ鍵を開ける。この時は村の人々が多く訪れる。

(354) Shāhzāde ‘Abdollah⁴⁴⁸ (写真 907,908)

Dehestān Razkān - Arverd – Rūstāye Eskamān

(北緯 35 度 36 分 56 秒、東経 51 度 07 分 18 秒、標高 1117 メートル)

Shāhzāde ‘Abdollah b. Hādī b. Mūsā b. Ja‘far

村はずれの墓地の中。周囲を畑に取り囲まれている。

緑の布をかけた墓石の置かれたハラムの前に、礼拝のための部屋が作り付けられている。現在はこの部屋にシャムダーンが設けられ、ハラム内でろうそくを灯すことが禁止されている。

(355) Emāmzādegān Aḥmad va Reḍā (写真 909)

Rūstāye Razkān

Emāmzādegān Aḥmad va Reḍā b. az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far⁴⁴⁹

村の奥の墓地の中。

近年、改修が行われ、礼拝のための部屋が取り付けられた。

木曜の午後のみ扉が開かれる。

このあたりもテヘラン市内で働いたり、農地で働くアフガン人が多く住んでいる。そのため、Dehestān Razkān にある三つのエマームザーデはどこも、アフガン人の姿が多く見られる。エマームザーデの扉が開けられる木曜日の午後になると、緑が多い廟の周辺には、参詣に訪れたアフガン人家族が休んでいる姿が非常に目立つ。

(356) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 910,911)

Jādde Robāte Karīm – Šabā Shahr (Qāsem ābād)

(北緯 35 度 34 分 48 秒、東経 51 度 07 分 04 秒、標高 1099 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollah az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far⁴⁵⁰

町外れの墓地の中。改修中。

廟の敷地を出入りするとき、あるいは近くを通りかかったときに、男性たちが胸に手を当て、廟に一礼する様子が見られるほど、このエマームザーデに対する崇敬の念が篤い。こうした様子は、村や町のエマームザーデではあまり

⁴⁴⁸ Sarvqadī, p.86.

⁴⁴⁹ Sarvqadī, p.84.

⁴⁵⁰ Sarvqadī, p.87.

見かけない⁴⁵¹。

(357) Emānzāde Bībī Sakīne Khātūn⁴⁵² (写真 912,913)

Khātūnler – Rūstāye Šāleḥ ābād

Emānzāde Bībī Sakīne Khātūn b. Emām Mūsā b. Ja'far

シャフリヤール郡でもっとも有名なエマームザーデの一つであり、多くの奇跡譚が伝わっているという。シャフリヤールや更に遠いところからも人が訪れ、寄付金を送ってくるとのこと。これらの寄付をもとに、古い廟を取り壊し、新しい廟を建設中。ハラム内部はアーイーネカーリーで装飾され、ドームなどをタイルで装飾している。

ザエルサラヤズィヤラトに来た人々のための設備が作られ、すべて無料で供されている。

以前は廟の傍らを川が流れていたが、現在は干上がってしまった⁴⁵³。

(358) Emānzāde Ḥamze (写真 914)

Rūstāye Shahr ābāde Bozorg

Emānzāde Ḥamze az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far⁴⁵⁴

街道沿いの町の裏側。墓地の中。

古い廟を改築中。ガージャール朝時代の建築⁴⁵⁵。

(359) Emānzāde Qāsem (写真 915,916)

Rūstāye Mard ābād

Emānzāde Qāsem az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far⁴⁵⁶

町外れの小さな墓地の中。周囲は工業団地。

土のドームを持つ小さな廟。増改築が行われ、礼拝のための部屋が作り付けられている。

オリジナルは9/16世紀の建築とされている⁴⁵⁷。

(p) キャラジ区 (Karaj)

⁴⁵¹ マシュハドのエマーム・レザ一廟では、遠くから廟に向かって一礼をする人を多く見かける。また、ハラムを出るときに背後を室内に向けないということが基本的に守るべき作法とされている。しかし、そうしたことが気にされていないことも多い。

⁴⁵² Sarvqadī, p.82.

⁴⁵³ *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.113-114.

⁴⁵⁴ Sarvqadī, p.84.

⁴⁵⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.277.

⁴⁵⁶ Sarvqadī, p.89.

⁴⁵⁷ ワクフ慈善庁のリストによる。

テヘランの西 35 キロメートル、アルボルズの南麓に位置するキャラジ市を中心とした郡。テヘランのベッドタウンとして急速に人口が増え、町周辺に工場が建ち並ぶこととなった。

北はマーザンダラーン州、南はシャフリヤール郡とマルキャズィー州、西はサーヴァジボラーグ郡とガズヴィーン州、東はテヘラン州とラヴァーサーナート郡とそれぞれ接している。

アルボルズからの豊富な水量に支えられた農業に支えられ、イスラーム以前から人が多く住んでいたことが明らかになっている。また、ガズヴィーン、セムナーンへのガズヴィーン街道と、マーザンダラーン州へ向かうチャールス街道、プーイン・ザフラー、ハマダーンへのエシュテハールド街道が分岐する地点に当たっていることから、古くから、特にサファヴィー朝以後、交通の要衝としての重要性も持つようになった。

アルボルズの水を利用した果樹、野菜の生産により、村の数も多いキャラジ郡北部と、エシュテハールド街道沿いの乾燥し水が少ないために農業生産高も多くなく、人口の少ないエシュテハールドに分けられる。

現在は、テヘラン-キャラジ街道沿いや、キャラジ市周辺に多い工場や、テヘラン市内での仕事を求めてイラン各地からテヘランへやって来た人々、テヘラン市内に仕事を持つものの、テヘラン市内の不動産価格の高さ故に移動してきた人々などで、年々人口が急激に増え続けている。

キャラジ (Karaj) の聖所

(360) Emānzāde Ḥasan (写真 917)

Karaj – Meidāne Qods

Emānzāde Ḥasan az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

キャラジ市内で最も人々が集まってくるエマームザーデの一つ。

古い廟を取り壊し、近年新築されたもの。図書館やゴルアーン学校(Dār al-Qorān)が併設され、宗教コンプレックスを形成している。

オリジナルの廟はサファヴィー朝時代の建築であった⁴⁵⁸。

(361) Emānzāde Moḥammad (写真 918,919)

Karaj – Heṣārake Pān

(北緯 35 度 50 分 07 秒、東経 50 度 55 分 65 秒、標高 1293 メートル)

Emānzāde Moḥammad naveye Emām Mūsā b. Ja‘far

廟の敷地の周囲にはワクフである商店が建ち並ぶ。

廟の敷地内には墓地が広がっている。墓地一人分 5 千万リヤール(2002 年)。

⁴⁵⁸ *Pazūhesh-nāme*, p.240. Sarvqadī, p.133. *Banā-hāye Āramgāhī*, p.114.

キャラジの共同墓地は別にあるが、キャラジ市内のエマームザーデに付属する墓地は非常に人気があり、価格が高騰しているとのこと。

1363S.H./1984年に古い廟を取り壊し、新しい廟の建設が始まり、1375S.H./1996年に完成。取り壊されたオリジナルの廟はサファヴィー朝時代の建築⁴⁵⁹。

(362) *Ptr Pīrān* (写真 920,921,922,923)

Āteshgāh

村に入っすぐの道路脇。

村の人によると樹齢二千年を超えるという木にダヒールが大量に結ばれている⁴⁶⁰。この木はある人物⁴⁶¹が植えたものと伝えられている。この付近にこれと同じ木はまったく存在していないとのこと。

木の傍らに建物があるが、こちらは礼拝所としてのみ機能しており、聖所として崇敬の対象となっているのは樹のみ。

(363) *Emānzāde Ṭāher ma'rūf be Seyyed Ṭāher* (写真 924,925,926)

Karaj – Mehr-shahr Janbe Otobāne Karaj

(北緯 35 度 49 分 07 秒、東経 50 度 55 分 38 秒、標高 1290 メートル)

Emānzāde Ṭāher b. Emām Zein al-'Ābedīn

キャラジ-ガズヴィーン街道沿いに見える大きな廟。

詩人や音楽家など、文化人が多く埋葬されているという広い墓地の中。

古い廟を取り壊し、1373S.H./1994年に新しい廟の建築を開始した。オリジナルの廟はサファヴィー朝時代の建築とされる⁴⁶²。

(364) *Emānzāde Ḥeidar* (写真 927,928)

Karaj – Kalāk

(北緯 35 度 46 分 79 秒、東経 51 度 01 分 51 秒、標高 1333 メートル)

Emānzāde Ḥeidar b. Zeid b. 'Alī b. al-Ḥosein Zein al-'Ābedīn

旧キャラジ-テヘラン街道沿い。広い墓地の中にある廟。その墓地の周囲を松などの木々が取り囲んでいる。

現在はダムができたためになくなってしまったが、以前はキャラジ川が近

⁴⁵⁹ *Pazhūhesh-nāme*, p.240. *Sarvqadī*, p.140.

⁴⁶⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.238. *Sarvqadī*, p.130.

⁴⁶¹ 名前やどのような人物であったのかについては伝わっていない。地元では単に *āqā* と呼ばれている。これは、男性に用いる敬称であり、通常、名前の前あるいは後ろにつけて用いられるが、「名前は分からないけど尊敬すべき人物」を表現する際に単独で用いられることもある。

⁴⁶² *Pazhūhesh-nāme*, p.240. *Sarvqadī*, p.138.

くを流れていたとのこと。

古い廟を取り壊し、新しく廟を建築している途中。オリジナルの廟はサファヴィー朝時代の建築であったとされる⁴⁶³。

広い廟内には鉄板を張ったような形のザリーが置かれているが、これにはダヒールが結ばれないため、壁際に立てかけられているアラムに多数のダヒールが結ばれている。

(365) Emāmzāde Taqī (写真 929,930,931)

Karaj – Kalāk Bālā

チャールース街道脇の村。斜面に貼り付いたように広がる村の上部。村のテキエ兼ホセイニーエの建物を入った奥の階段を昇ったところにある小部屋の中。少しえぐれた岩に扉が付けられていて、その鉄枠にはダヒールがびっしりと結ばれている。岩には多量のろうそくの跡。

建物はすべて近年になって建てられたもので、それ以前の建物については明らかではない⁴⁶⁴。

(366) Emāmzāde Gheibī (写真 932)

5 kilo metrye Jādde Karaj – Daste chape Jādde

バークに囲まれた小さな廟。木曜日の午後と金曜日のみ扉を開けるとのこと。

緑の布をかけた墓石が置かれただけの廟内は、近年建てられたもので、ホセイニーエとしても使われている⁴⁶⁵。

(367) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 933,934)

Karaj – Mehr-shahr - ‘Alī ābādgūne

Emāmzāde ‘Abdollah az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

村はずれの墓地の中に建つ廟。少しだけ周囲よりも高くなった場所。廟に最も近い場所にある墓の一つを囲う柵にダヒールが結ばれていた。

礼拝用の部屋を周囲に巡らせた廟は、近年になって以前の建物を取り壊して建てられたもの。オリジナルの廟はガージャール朝時代の建築であった⁴⁶⁶。

(368) Emāmzādegān Aḥmad va Maḥmūd (写真 935)

Mard ābād (Māhdasht) – Zamīnhāye Shahrāsāzi

⁴⁶³ *Pazhūhesh-nāme*, p.239. Sarvqadī, p.134.

⁴⁶⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.239. Sarvqadī, p.131.

⁴⁶⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.239. Sarvqadī, p.140.

⁴⁶⁶ *Pazhūhesh-nāme*, p.239. Sarvqadī, p.139.

町の外の畑が広がる中。少し周囲よりも高くなった場所。
激しい盗掘により廃墟のようにになっている。廟内には埋葬者を示す墓石なども見えず、人が訪れている様子はまったく見られない。
廟の建築年代はサファヴィー朝に遡ると見なされている⁴⁶⁷。

エシュテハールド(Eshtehārd)街道沿いの聖所

(369) Emānzādegān Raḥmān va Zeid ma'rūf be Se Gonbadān (写真 936,937,938)

Jādde Eshtehārd – Palang ābād (Raḥmānīye)

az navādegāne Emām Ja'far Ṣādeq

エシュテハールド街道沿いに建つ三つのドームを持つ廟。村の墓地の中。
廟の前には泉とタップがあり、泉から引かれた水路が廟の脇を流れている。
廟は修復中であるが、廟内のあちこちにろうそくを灯した新しい跡などがある。

大きな木のザリーの置かれたハラムと、その脇に礼拝用の部屋。礼拝用の部屋にも古い木のザリーが置かれているが、これは取り替えられたものが置かれているだけとのこと。

改修などが繰り返されているが、オリジナルの建築年代は 8/14 世紀とされる⁴⁶⁸。

(370) Emānzāde Razzāq (写真 939,940,941)

Jādde Eshtehārd – Se-rāhe Jārū

(北緯 35 度 43 分 92 秒、東経 50 度 32 分 06 秒、標高 1150 メートル)

エシュテハールド街道沿い。街道が分岐している三叉路。

周囲には墓地。街道を挟み、カールヴァーンサラーと住居跡。

ワクフ慈善庁による看板が立てられ、ドームなどに一部修理の跡はあるが、廟の周囲や内部は盗掘が激しく行われており、人が訪れている様子は見られない。廟内にザリーや墓石などは見られない。

廟の建築年代はガージャール朝時代と見なされている⁴⁶⁹。

(371) Emānzādegān Omm Ṣoghrā va Omm Kobrā (写真 942,943)

Eshtehārd

Emānzādegān Omm Ṣoghrā va Omm Kobrā az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

⁴⁶⁷ *Pazhūhesh-nāme*, p.239. Sarvqadī, p.130.

⁴⁶⁸ Sarvqadī, p.130. *Pazhūhesh-nāme* ではサファヴィー朝時代の建築とされている。(p.239)

⁴⁶⁹ Sarvqadī, p.135. *Pazhūhesh-nāme*, p.240.

町の墓地の中。周囲にはハンマームをはじめとする古い町並みが見られる。街道沿いに広がる現在のエシュテハールドの中心からは少し外れている。

入り口からハラムまでの細長い部屋の中にも、いくつもの新しい墓が置かれている。

廟内には 1089/1678 年の碑文が残る⁴⁷⁰。

(372) Emāmzāde Soleimān ma'rūf be Shāhzāde Soleimān (写真 944,945)

Jādde Eshtehārd – na-rasīde be Eshtehārd

Emāmzāde Soleimān b. Emām Mūsā b. Ja'far

エシュテハールド街道沿い。

墓地などは特に付属していない。

町や村からは少し距離があるが、人々がよく訪れ、廟内で時間を過ごしている。多くは、ザリーが置かれたハラムの前に作られた部屋でろうそくを灯し、祈りを捧げて過ごす。

廟の建築はサファヴィー朝に遡る⁴⁷¹。

チャールース(Chālūs)街道沿いの聖所

(373) Emāmzādegān 'Abdollah, Ṭāher va Ebrāhīm⁴⁷² (写真 946,947)

Jādde Chālūs – Rūstāye Kondor

Emāmzādegān 'Abdollah, Ṭāher va Ebrāhīm b. Emām Mūsā b. Ja'far

山の中の街道の行き止まりにある大きな村。村の墓地の中に建つ廟。

二本のゴルダステを持つ大きな廟で、ズィヤーラトの人々が泊まり込みで祈ることができるよう、寝具なども用意されている。夏になると多くの人が訪れるという。

廟のオリジナルはサファヴィー朝に遡るとされるが、最近になって大規模に増改築が行われている⁴⁷³。

(374) Seyyed Ebrāhīm (写真 948,949)

Jādde Chālūs - Rūstāye Kondor

村の西端の山腹に建つ廟。岩窟に粗末な煉瓦造りの小屋が作り付けられて

⁴⁷⁰ Sarvqadī, p.131. *Pazhūhesh-nāme*, p.241. ガージャール朝時代の建築が混じっていることが指摘されている。 *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jelde avval, p.126.

⁴⁷¹ Sarvqadī, p.136. *Pazhūhesh-nāme*, p.241.

⁴⁷² Sarvqadī (p.139) も *Pazhūhesh-nāme* (p.237)もエブラーヒームの名前には言及していないが、現地ではこの名前が使われている。

⁴⁷³ Sarvqadī, p.139. *Pazhūhesh-nāme*, p.237.